

大阪市立大学 学部
理念・目的・3ポリシー

<u>商学部</u>	2
<u>経済学部</u>	5
<u>法学部</u>	8
<u>文学部</u>	11
<u>理学部</u>	15
<u>工学部</u>	28
<u>医学部医学科</u>	42
<u>医学部看護学科</u>	46
<u>生活科学部</u>	49

商学部

○理念

1880年開設の大阪商業講習所を源流とする大阪市立大学商学部は、130年をこえる歴史と伝統があります。戦前は現在の一橋大学、神戸大学とともに「三商大」の一角を担い、わが国有数の学部として、今日まで常に日本の経営学・商学・会計学の分野をリードしてきました。

経済を構成する最小単位であり、社会における財・サービス生産の担い手である「企業」。商学部では「企業」の活動を通して、「生きた経済」を学びます。常に見据えているのは「現実」ですが、「理論と実務の統合」を学風とする本学部では、理論や歴史も大切にしています。

本学部での教育の最大の特徴は、少人数でのゼミナール制度を採用していることです。教員との親密で徹底的な討論を通じて自分の頭で物事を考え、それを明確に表現できる能力を養うために、きめ細かな教育が行われています。

実社会との交流を重視する「考える実学」を基礎に、時代を見通せる能力の育成をめざします。

都市に基盤を置き世界的な視野に立って、経営学・商学・会計学に関する教育研究の発展をめざします。

先端的な研究の成果を活かした教育の発展をめざします。

○人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

経営学・商学・会計学の学問的知識を身につけ活かすことのできる人材を育成する。

課題発見能力と解決能力を身につけた個性と社会性あふれる人材を育成する。

（商学科）

おもに企業のマネジメントで活躍し、社会の持続可能な発展に貢献する人材を育成する。

（公共経営学科）

経済の地域性や企業の社会性に関心をもち、企業のみならず、地方公共団体、NPO/NGOなどのマネジメントで活躍できる人材を育成する。

○学位授与指針（ディプロマポリシー）

経営学・商学・会計学に関する基礎的知識から専門的知識まで体系的に修得することで、現代の企業や社会が直面する多様な課題や問題を自ら発見、分析、解決する能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に、卒業を認定します。

全学共通科目 40 単位（総合教育科目 24 単位、外国語科目 12 単位、健康・スポーツ科学科目 4 単位）と専門教育科目 84 単位（学科共通基礎科目「経営学」「経済学」「会計基礎論」「プロゼミナール」各 2 単位で 8 単位、学科共通外国語科目 6 単位、学科共通専門科目 6 単位、学科専門科目 34 単位、展開科目 30 単位）の合計 124 単位を修得し、GPA 1.0 以上となると卒業できます。

○入学者受入指針（アドミッションポリシー）

（求める学生像）

「考える実学」教育の方針のもと、実社会について旺盛な探求心と世界的視野を持って学修し、その成果をもって経済社会の発展に積極的に貢献しようとする意欲と能力のある、人間性豊かな人を求めます。

〈入学者選抜の基本方針〉

【一般選抜(前期日程)】

大学入学共通テストで、高等学校教育段階においてめざす基礎学力を、個別学力検査では、商学部での学修に十分に対応できる、知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの準備性をそれぞれ確認し、調査書の内容とあわせて総合的に評価します。

【一般選抜(後期日程)】

大学入学共通テストで、高等学校教育段階においてめざす基礎学力及び、商学部での学修に十分に対応できる準備性をそれぞれ確認し、調査書の内容とあわせて総合的に評価します。

【専門学科・総合学科卒業生選抜(前期日程)】

大学入学共通テストで、高等学校教育段階においてめざす基礎学力を、個別学力検査では、商学部での学修に十分に対応できる、知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの準備性をそれぞれ確認し、調査書の内容とあわせて総合的に評価します。

【学校推薦型選抜】

推薦書等の出願書類、大学入学共通テスト及び口述試験で、学ぶ意欲と商学部での学修に十分に対応できる、基礎学力と知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの準備性を確認し、総合的に評価します。

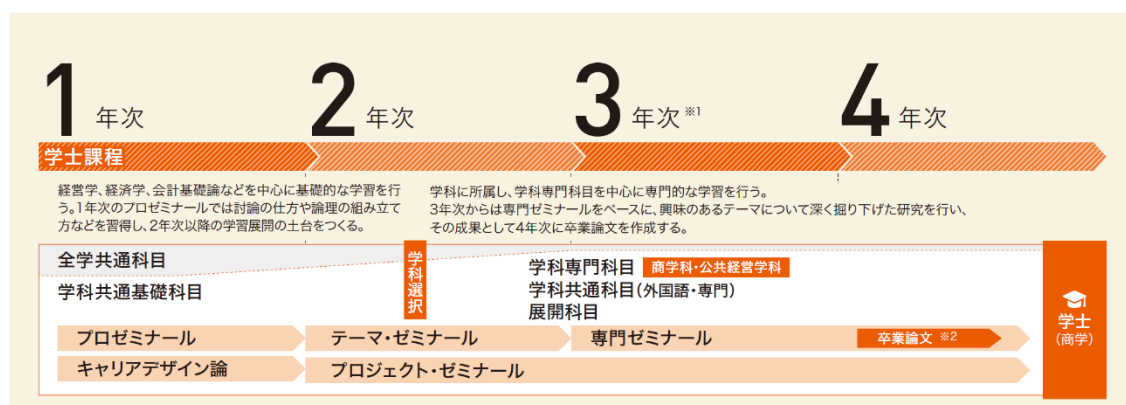
【私費外国人留学生選抜】

日本留学試験で、日本語能力及び基礎学力を、個別学力検査等では、学ぶ意欲と商学部での学修に十分に対応できる、知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの準備性をそれぞれ確認し、成績証明書とあわせて総合的に評価します。

○教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）

「考える実学」を学風とする商学部では、理論と実務のインタラクション（相互作用）を意識しつつ、基礎から専門へ体系的に学べるカリキュラムを編成しています。1 年次から 2 年次前半は、経営学、経済学、会計基礎論、プロゼミナールなどを中心に基礎的な知識と能力を身に付けます。2 年次後半からは商学科、公共経営学科のいずれかの学科に所属し、学科専門科目を中心に専門的な学習を行います。商学部での教育の特徴は、各年次でゼミナール制度を採用していることです。1 年次のプロゼミナールに始まり、2 年次の

テーマ・ゼミナールやプロジェクト・ゼミナール、3・4年次の専門ゼミナールと卒業するまで一貫した少人数教育を行っています。



※1:「学部・大学院5年教育プログラム」(学部と大学院前期博士課程を5年で修了できる制度)には3年終了時に応募できます。 ※2:卒業論文は選択科目です。

経済学部

○理念

閉塞した経済を打破するための完璧な経済政策が存在しないことが示すように、現実を完全に経済学で把握するということは非常に難しいことです。しかし、経済学は、どういう仮定のもとであれば現実が説明できるのかというアプローチから、本質は何かを見極めようとしします。さらに、実証分析によって、現実になにが起こっているのか、理論に間違いはないのかを検証します。

経済学部では伝統的に徹底した少人数教育を重視し、入学時から卒業にいたるまで全員が受講可能なゼミナールが提供され、報告、議論、論文の作成など指導教員からの親切かつ適切な指導を受けることができます。

グローバル社会の進展下における最高水準の理論的・実証的分析を目指します。

「人の心」をもって政策や制度を考える人間学としての経済学を追求します。

アジアや太平洋の経済圏にかかわって主導的な教育・研究拠点を目指します。

○人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

グローバルな経済・社会が直面する課題を的確にとらえ、それを経済学の素養と外国語による受信・発信能力とを生かして分析し、解決の方途を他者との協働により複眼的構想力をもって立案しうる、グローバル・プラクティカル・エコノミスト（GPE）を育成する。

国内外の経済活動に関わる重要な分野で、個性的で創造的な活動によるリーダーシップを発揮する人を育成する。

○学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

経済学部は、〈グローバル・プラクティカル・エコノミスト（GPE）〉を養成します。

〈グローバル・プラクティカル・エコノミスト（GPE）〉とは、グローバルな経済・社会が直面する課題を的確にとらえ、それを経済学の素養と外国語による受信・発信能力とを生かして分析し、解決の方途を他者との協働により複眼的構想力をもって立案しうる人を指します。

この目標を達成するために経済学部のカリキュラム・ポリシーに沿って卒業に必要な単位を修得し、〈グローバル・プラクティカル・エコノミスト（GPE）〉としての学修成果（スキルとアビリティ）を獲得した学生に、経済学の学士号の学位を授与します。

○教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学部のカリキュラムは、各学生が〈グローバル・プラクティカル・エコノミスト

(GPE))として6つの学修成果(スキルとアビリティ)を獲得することを目標に編成する。
6つの学修成果を経済学部は以下のように定める。

学修成果A：修得した専門知識による論理的な思考に基づいて、柔軟な発想ができる。

学修成果B：多様な情報を収集・分析し、それを日々の生活のなかで活用することができる。

学修成果C：外国の言語と文化を学修・修得し、世界のさまざまな国・地域の人びとと意思疎通することができる。

学修成果D：分析の結果を、言語や記号を用いて他者にわかりやすく提示することができる。

学修成果E：グローバル社会かつ地域社会の一員であることの自覚を持ち、自らの知識・技能を生かし、社会の発展のために寄与することができる。

学修成果F：学修成果A～Eを活用し、多様な見方を総合して、問題解決の新しい方途を複眼的に構想することができる。

以上、6つの学修成果を学生が獲得することを目指し、経済学部のカリキュラム・ポリシーは次の6点を重視する。

- ① 経済学の基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成する。
- ② 初年次から最終年次までのすべての年次において、少人数による演習科目を配置する。
- ③ 基本的な教養と学際的な視点を身につけるために、全学共通教育科目を4年間にわたって履修することができる。
- ④ 英語で提供される講義科目と演習科目を豊富に設けることで、英語による受信・発信スキルの向上を支援する。
- ⑤ 国内や海外の他大学との交流および討論の機会を用意し、複眼的な構想力と協働への志向性を育む。
- ⑥ 卒業論文は獲得した学修成果を最大限に生かしながら取り組むことができるように指導する。

○入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

〈求める学生像〉

経済学部は、高等学校教育段階において人文・社会・自然科学を均衡のとれた仕方で学び、グローバルな経済・社会が直面している問題に関心を抱き、他者とのコミュニケーションや共同の取り組みに対して意欲的な人を受け入れます。

〈入学者選抜の基本方針〉

【一般入試（前期日程）】

大学入学共通テストでは高等学校教育段階においてめざす基礎学力を、個別学力検査で経済学部での学修に十分に対応できる知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの獲得水準を、それぞれに確認し、調査書の内容とあわせて総合的に評価します。

【一般入試（後期日程）】

[高得点選抜]

大学入学共通テストで高等学校教育段階においてめざす基礎学力、及び経済学部での学修に十分に対応できる能力を確認し、調査書の内容とあわせて総合的に評価します。

[ユニーク選抜]

大学入学共通テストでは高等学校教育段階においてめざす基礎学力及び経済学部での学修に十分に対応できる能力を、自己推薦書・特別活動要覧等の書類では活動成果・実績を、それぞれ確認し、調査書の内容とあわせて総合的に評価します。

【社会人入試】

筆答試験及び口述試験で、経済学部での学修に十分に対応できる知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの獲得水準と学ぶ意欲とを確認し、総合的に評価します。

【私費外国人留学生入試】

日本留学試験では日本語能力及び基礎学力を、個別学力検査等では経済学部での学修に十分に対応できる知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの獲得水準と学ぶ意欲を、それぞれ確認し、成績証明書とあわせて総合的に評価します。

法学部

○理念

法学部は、豊かな発信能力と法的思考力（リーガルマインド）を持つ人材育成のための充実した教育・研究をめざします。

法学・政治学は人間の歴史の中で積み重ねられた学問であると同時に、社会の新たな変化に立ち向かう学問でもあります。そこで法学教育の伝統を受け継ぎ、豊かな法的思考を培うための3コースを設置しています。

法学部では、研究者として優れていることが良い教育者であることの必要条件であると考え、優れた研究者を教員として採用することに努めてきました。そして現在では、全国的に見ても研究者としての水準の極めて高い教員集団を要する学部となっています。法学部で学ぶことの魅力の一つは、少人数教育を通して、このような充実した教員集団との密度の高い交流の機会が得られることにあります。

○人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

主体的に問題を発見する能力と、自己の見解を社会に発信する能力を持つ人材を養成する。法学的政治学的知識を主体的に展開する能力、特に自己の主張を論理的に構成し表現・文章化する能力を持つ人材を養成する。

○ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

幅広い教養と複数の外国語能力の上に、法学的政治学的観点から主体的に問題を発見する能力、及び、法学的政治学的知識を主体的に展開する能力、特に自己の主張を論理的に構成し表現・文章化する能力を身につける。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

1. 幅広い教養と複数の外国語を身につけるために、全学共通教育科目を履修する。
2. 法学・政治学の基礎を少人数の演習形式によって会得させるために、1回生前期で基礎演習を開講する。
3. 法学・政治学に関する基礎的、基本的な知識の着実な習得を重視し、専門の講義科目を開講する。その際、学生が自らの関心と将来計画に基づいて科目の選択ができるよう3つのコース（下記参照）と履修モデルを示す。
4. 専門演習4単位を必修とし、それ以上の履修を奨励する。専門演習では特に学生の自主的な研究と討論能力の養成を重視する。原則として15名以下の少人数教育を行う。
5. 法学・政治学を外国語によって調査・研究する能力を育成するために、英独仏中国語の外国語演習を開講する。
6. 総合大学である利点を生かし、文系他学部の専門科目の履修も一定範囲で認める。

★学生のキャリアデザインを見据えた3コース制（1年次終了時に選択）

司法コースのコンセプト（目標）：

将来の法曹をめざしてロースクール進学を希望する者や裁判所職員、司法書士などをめざす者が、伝統的な法律科目の修得を通じて法的思考力を養い、法律実務の基礎となる能力を育成する。

行政コースのコンセプト（目標）：

国家・地方公務員などをめざす者が、伝統的な法律科目を修得するとともに、政治・行政学関連科目の履修を通じて政策立案能力を育成する。

企業・国際コースのコンセプト（目標）：

民間企業やジャーナリストをめざす者が、法律科目だけでなく、政治学や国際関係法などの幅広い社会科学的知識を習得することにより、社会的感覚と現実的な政策マインドを育成する。

各コースに「コース基本科目」「コース標準科目」「コース展開科目」を設定し、学生が履修計画を立てる参考に供している。[コース別専門教育科目標準履修モデル]参照。

○アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

1. 新しい問題に果敢に取り組む知的好奇心を持つ人
2. 自分を相対化するための想像力と豊かな人間性を持つ人
3. 相手の意見を的確に理解し、自分の意見を論理的に構成して、正確に表現・文章化する能力を持つ人
4. 法学・政治学の専門的知識を身につけるために必要な一般教養を有する人

<入学者選抜の基本方針>

【一般入試（前期日程）】

大学入試センター試験では高等学校教育段階においてめざす基礎学力を、個別学力検査では法学部での勉学に十分対応できる知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの獲得水準をそれぞれ確認し、調査書の内容と合わせて総合的に評価します。

【一般入試（後期日程）】

大学入試センター試験では高等学校教育段階においてめざす基礎学力を、個別学力検査では法学・政治学の勉学に必要な適性と能力をそれぞれ確認し、調査書の内容と合わせて総合的に評価します。

【私費外国人留学生入試】

日本留学試験では日本語能力及び基礎学力を、個別学力検査等では法学部での勉学に十分

に対応できる知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの獲得水準と学ぶ意欲をそれぞれ確認し、成績証明書と合わせて総合的に評価します。

文学部

○理念

文学部に共通するのは、人間と、人間の作り上げてきた文化を総体として深く理解しようとする姿勢で、その根底にはヒューマニズムがあり、対象は地球上のいたるところに広がります。本学部では人間自身と、人間が生み出した言語、思想、宗教、歴史、制度などの文化的事象と社会的現象を広く研究対象と捉えています。

また、数名から十数名という徹底した少人数編成を採用しています。そして、各コース、専門領域が提供する多彩な科目の中から、学生たちは各自の関心に沿ってカリキュラムを組み立て、専門的もしくは学際的なテーマを探究していくことができます。

人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象とそこに内在する普遍性を探究します。

人間、社会、都市、文化をとりまく今日的課題の解決に貢献し得る人文科学・行動科学の構築をめざします。

先端的研究成果をグローバルな視野から情報発信できる国際的競争力を備えた最高水準の教育・研究をめざします。

○人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材を育成する。

コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材を育成する。

教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる専門性を身につけた人材を育成する。

(哲学歴史学科)

人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することのできる力をもった人材を育成する。

(人間行動学科)

人間や社会を理解するための科学的方法を身につけ、人間行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることのできる人材を育成する。

(言語文化学科)

人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することのできる人材を育成する。

(文化構想学科)

文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践活動へと結びつけることができる人材を育成する。

○学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

文学部は、①人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象について深く考えることのできる人材、②コミュニケーション能力を身につけ、国際的、歴史的視野から問題解決をはかる能力を備えた人材、③教育機関、文化行政、出版・ジャーナリズム、国際交流、情報サービス産業などの第一線で活躍できる高度な専門性を身につけた人材を育成します。

くわえて、各学科の人材育成の目標を、以下のように定めます。

哲学歴史学科：人間の歩みと思索の過程を考究し、人間にたいする洞察力と歴史への理解を基に、未来を展望することのできる力をもった人材を育成します。

人間行動学科：人間や社会を理解するための科学的方法を身につけ、人間の行動や人間を取りまく事象を様々な視点から考えることのできる人材を育成します。

言語文化学科：人間が創り上げてきた言語・文学・文化を深く理解し、自文化、異文化の双方を見通しながら、新たな文化の創造に寄与することのできる人材を育成します。

文化構想学科：文化にたいする深い理解をもとに、新たな文化表現の創出や多文化共生的価値の構築を希求しながら、文化を社会的実践活動へと結びつけることができる人材を育成します。

上記の人材育成の目標を達成するために設置された教育課程において、所定の単位を修得したうえで卒業論文を提出し、厳正なる審査に合格した者に、学士（文学）の学位を授与します。

○教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部は、人文科学・行動科学の基礎となる原典、史料、文献などを調査・読解する能力を鍛え、批判的、創造的に問題に取り組む能力を培います。

くわえて、各学科の教育課程の目標を、以下のように定めます。

哲学歴史学科：人間の思考と社会・文化を根本的・原理的に問う哲学的観点と、それらの本質を時間軸における変化のなかに見出す歴史的観点とを相補的に培います。

人間行動学科：人間の行動の諸側面を対象とし、それらを観察・調査・実験・フィールドワークなどの科学的手法に基づき解明する能力を培います。

言語文化学科：さまざまな言語・文学・芸術を対象とし、それらを実証的、学際的に考察し、社会・文化事象に対する深い理解力、優れた言語運用能力や豊かな国際性を培います。

文化構想学科：新たな文化表現の創出、共生的文化の構築、文化資源の活用など、人間の文化的営みを社会のなかで実践的に活用できるような能力を培います。

以上の目標を達成するため、文学部は次の6点を重視します。

- ①人文学の基礎から応用まで段階を踏んで学んでいく体系的な講義科目を編成します。
- ②初年次から最終年次までのすべての年次において、少人数による演習科目を配置します。
- ③基本的な教養と学際的な視点を身につけるために、全学共通科目を4年間にわたって履修できることとします。
- ④国際的な視野を獲得し、活躍する人材を養成するため、英語・新修外国語の修得を重視します。
- ⑤専門分野の知識をさらに広く活用する能力を養うため「副専攻」制度を認めています。
- ⑥卒業論文は獲得した学修成果を最大限に生かしながら取り組むことができるように指導します。

○入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

〈求める学生像〉

- ・人間の思考と社会・文化の生成発展について考えてみたい人
- ・人間行動の原理と社会のしくみについて考えてみたい人
- ・さまざまな言語や文学・芸術について考えてみたい人 ・さまざまな文化的営みを社会のなかで活かす方法を考えてみたい人
- ・論理的思考を鍛え新しいものの見方を求めようとする人

〈入学者選抜の基本方針〉

【一般選抜(前期日程)】

大学入試センター試験では、高等学校教育段階においてめざす基礎学力を、個別学力検査では、文学部での学修に十分に対応できる、知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの準備性をそれぞれ確認し、調査書の内容とあわせて総合的に評価します。

【一般選抜(後期日程)】

大学入試センター試験では、高等学校教育段階においてめざす基礎学力を、個別学力検査では、文学部での学修に十分に対応できる、論理的思考力・表現力などの準備性をそれぞれ確認し、調査書の内容とあわせて総合的に評価します。

【国際バカロレア選抜】

成績証明書等の出願書類、小論文及び口述試験で、学ぶ意欲と文学部での学修に十分に対応できる、基礎学力と知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの準備性を確認し、総合的に評価します。

【帰国生徒選抜】

成績証明書等の出願書類、小論文・外国語試験及び口述試験で、学ぶ意欲と文学部での学修に十分に対応できる、基礎学力と知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの準備性を確認し、総合的に評価します。

【私費外国人留学生選抜】

日本留学試験で、日本語能力及び基礎学力を、個別学力検査等では、学ぶ意欲と文学部での学修に十分に対応できる、知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの準備性をそれぞれ確認し、成績証明書とあわせて総合的に評価します。

理学部

○理念

古来より、人類は自然を理解するために観察と思考を積み重ねてきました。しかし自然界には、まだまだたくさんの謎が隠されています。わからないことに明確な問題意識を持ち、複雑な自然の奥にある規則性や関係を探し出して、言葉の世界に写し取るのが、理学の使命です。

自由な学風のもとで現代の最先端の研究と教育をおこなっているのが大阪市立大学理学部の特徴です。さらに少人数教育、実験実習を重視し、最先端の研究を早い時期から紹介します。原理を体系的・実験的に学ぶことができます。意欲のある学生は、実際の学年より上の学年の講義を受講することもできます。また3年次に大学院を受験することも可能です。また、大阪府交野市に25ヘクタールの敷地に国内外の6,700種以上の植物が育成されている附属植物園があります。

極微の世界から広大な宇宙までを対象に、実験的・理論的手法を駆使して自然界を律する真理を探究します。

自然の存在様式と法則性の体系的学習を基礎に、自然の摂理に触れることへの喜びを教育の原点として、自然科学や最先端科学・技術の振興に寄与できる国際的な視野をもった人材を育成します。

○人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

人材の養成に関する目的：

科学の最先端に連なる基礎学力を身につけ、伸びやかな発想で社会に貢献できる人材を育成する。

中高教員などの教育職、各省庁及び地方公共団体や民間企業などで活躍できる人材を育成する。

教育研究上の目的：

極微の世界から広大な宇宙までを対象に、実験的・理論的手法を駆使して自然界を律する真理を探究する。

自然の存在様式と法則性の体系的学習を基礎に、自然の摂理に触れることへの喜びを教育の原点として、自然科学や最先端科学・技術の振興に寄与できる国際的な視野をもった人材を育成する。

(数学科)

人材の養成に関する目的：

- ・数学研究所と連携して、国際的に活躍できる人材を育成する。
- ・数学の最先端に連なる基礎学力を身につけ、伸びやかな発想で社会に貢献できる人材を育成する。
- ・中高教員などの教育職、各省庁及び地方公共団体や民間企業などで活躍できる人材を育成する。

教育研究上の目的:

- ・数学は、すべての科学の基礎であり共通の言葉である。また、なにものにも縛られず、純粋に人間の知的欲求、美意識から生まれた不朽の価値を有する文化である。このように基礎的かつ普遍的である数学は、急激な変貌を遂げている我々の社会において、今後広がりと深みを増して益々重要になっていくであろう。我々は、これに応えるべく、数学のさらなる広がりと深化を目指して研究を行う。
- ・自由な学問的雰囲気の中、知ることへの憧れ、考えることの楽しさ、問題解決の喜びを大切にして、物事の本質を見極め、自由で独創的な発想ができ、自らが理解したことを正確にわかりやすく表現できる人材を育成する。

(物理学科)

人材の養成に関する目的:

・現代物理学の研究領域は、素粒子・原子核の極微の世界から、天体や宇宙をあつかう極大の世界、低温やプラズマといった極限環境、あるいは日常的なスケールの物質をあつかうものまで、森羅万象にわたっている。物理学科は、これらの多岐にわたる研究領域に対応できるように編成されており、物理学の諸領域のバランスのとれた最前線の研究と各研究分野における教育を行ってきた。これらの研究成果を社会に還元できる人材を育成するために、実験や観測による現象を把握し、理論による体系化された理解ができる能力を身につけ、自然のふるまいについての物理的描像をもつように学生を教育する。学生は、物理学で養った自然科学の基本を活用し、科学・技術を必要とする企業や公的機関、教育職等で活躍すること、あるいは大学院へ進学してより高度な研究へと進むことを目指す。

教育研究上の目的:

・物理学科の教育の基本理念は、自然科学の最も重要な基礎である物理学の知識と考え方を身につけ、広く社会に貢献しうる人材を育成することである。研究においては、素粒子・原子核・宇宙から物性に至る現代物理学の諸分野において、最前線の知見を育み真理の探究を行うことを理念とする。大学(院)教育と研究は物理学科の活動の両輪と考え、常に研鑽を積み相互に高め合うことを目指す。教育と研究を通じて、科学のフロンティアに携わる者としての社会的貢献を実践する。

（化学科）

人材の養成に関する目的:

・21世紀は分子と分子機能の時代であるとの認識に立脚し、物質の構造・反応・機能を原子・分子のレベルから理解できるよう教授する。先端的な物質合成法、科学計測法、化学情報利用法などの教育も行い、これからの化学を担う国際的な人材を育成する。

教育研究上の目的:

・物質の構造・反応・機能を原子・分子のレベルから理解し、広い範囲の自然科学を化学的に考えることができる人材を育成する。物質観を中心に据えた科学的センスを養い、物質科学や生命科学などの先端学際領域を切り開くための豊かな化学を追及する。学修した成果を社会の様々な分野で活かすことの出来る人材を輩出する。

（生物学科）

人材の養成に関する目的:

・生物および生命現象に関する広範な知識を会得するとともに、新規に発現した問題に対しても柔軟に対応して解決する能力を身に付け、社会に貢献できる人材を育成する。特に、中高教員などの教育職、各省庁及び地方公共団体や民間企業などで活躍できる人材を育成する。

教育研究上の目的:

・分子・細胞レベルおよび個体から地球レベルに至る幅広い分野にわたって、また、脊椎動物・無脊椎動物・高等植物・菌類・細菌と多様な生物群を対象とする研究を通して、生命現象に共通する性質を明らかにするとともに、生物多様性の本質を探究する。同時に、応用生物学の基礎としての生物学の進展に心がけ、環境問題や食料、医療などにかかわる21世紀の諸課題を解決する。

（地球学科）

人材の養成に関する目的:

・地球の過去・現在の学際的な認識能力や未来の予測技術を持ち、地球自然と人間社会の接点に立って、環境保護や自然災害防止などに貢献できる人材を育成する。

教育研究上の目的:

・地球の過去・現在の学際的な認識を通じて未来の地球を予測する新しい学問体系を確立し、その認識能力・予測技術をもった人材を育成する。

○教育の特色と目標

古来より、人類は自然を理解するために観察と思考を積み重ねてきました。しかし自然界には、まだまだたくさんの謎が隠されています。わからないことに明確な問題意識を持ち、複雑な自然の奥にある規則性や関係を探し出して、言葉の世界に写し取るのが、理学の使命で

す。自由な学風のもとで現代の最先端の研究と教育をおこなっているのが大阪市立大学理学部の特徴です。さらに少人数教育、実験実習を重視し、最先端の研究を早い時期から紹介するとともに、原理を体系的・実験的に学ぶことができます。自然の存在様式と法則性の体系的学習を基礎に、自然の摂理に触れることへの喜びを教育の原点として、自然科学や最先端科学・技術の振興に寄与できる国際的な視野をもった人材の育成を目標とします。

○卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

所定の修得要件を満たすことにより、各学問分野における科学の最先端に連なる基礎学力を身につけ、伸びやかで柔軟な発想で社会に貢献できる学生に、学位を授与します。

○教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪市立大学理学部の教育理念は、（１）極微の世界から広大な宇宙までを対象に、実験的・理論的手法を駆使して自然界を律する真理を探究し、（２）自然の存在様式と法則性の体系的学習を基礎に、自然の摂理に触れることへの喜びを教育の原点として、自然科学や最先端科学・技術の振興に寄与できる国際的な視野をもった人材を育成することです。この教育理念を実現するために、それぞれの学科の方針に沿ってカリキュラムを編成しています。なお、理科選択制度では、学科を決めずに理学部に入学した学生に、１年生の間に物理、化学、生物、地球それぞれの学問領域の概要についての科目を提供します。そして、入学１年後には、選択した学科のカリキュラムを実施します。

○入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1. 自然科学の基本原理を理解する基礎学力を有し、各学科の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に掲げる学生を求めます。理科選択制度については、物理学科、化学科、生物学科、地球学科の少なくとも１つの学科の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に掲げる学生を求めます。
2. 学力の３要素のうち、一般入試では知識、思考力・判断力・表現力に重きを置き、推薦入試と編入学試験では、さらに主体性・多様性・協働性に重きを置いた選考を行います。

数学科 学士課程の３ポリシー

○教育の特色と目標

自然界のいたるところに数理的な構造が潜んでいます。それらを発見し更にその仕組みを解明しようとする営みによって、数学は成長し現在の姿になりました。理学部数学科は、少人数制教育を特色として、現代数学の基礎概念の修得を主たる目標とした教育を行います。次のような人材の育成を目指します。

- 数学の最先端に連なる基礎学力を備え、伸びやかな発想で社会に貢献できる人材
- 中学・高校教員などの数学科教育職はもちろん、実際に数学力を必要とする幅広い分野の民間企業や各省庁および地方公共団体などで活躍できる人材
- 大学院に進学し、数学研究所と連携して国際的に活躍する研究者を目指す人材

○卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

数学の考え方を基軸とし全学共通教育科目の習得により深めた教養をふまえ、現代数学の基礎概念を修得し、さまざまな問題に対処できる論理的能力を身につけた学生に学位を授与します。所定の卒業単位数 130 以上を修得することが必要です。

○教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

現代数学の基礎概念を修得し、さまざまな問題に対処できる論理的能力を身につけるため、専門科目（講義・演習）が基礎から先端まで体系化されたカリキュラムを提供します。物事を根本から論理的に考察する作業や、相手に分かりやすい説明を工夫する訓練は、将来さまざまな問題に直面した際に必ずや助けとなるでしょう。一方で、自然科学一般や人間や社会などへの興味を深め、学び方そのものを自分自身でつかむということは大切な経験です。そのために全学共通教育科目の履修を課します。

国際化の傾向が強くなっている現在、語学力の習得は必須です。語学力を基に外国文化への関心と理解を深めるために、外国語教育にも力を入れます。

数学は、とりわけ「積み上げ式」の性格の強い学問です。1 年次に専門教育科目（数学要論 A・B、数学基礎演習 I・II）を積み上げの出発点として提供しています。そのため、これらの科目の単位取得は、2 年次から 3 年次への進級条件の一つとなっています。4 年次には特別研究（卒業研究）により、自らが課題を発見し、問題を解決し、得られた成果を表現する能力を養います。

それぞれの講義科目の関係については、下図の「数学科カリキュラムマップ」を参照してください。

○入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

- 数学のアイデアに感動し、さらに深く探りたいと思っている人
- 定理や公式の証明あるいはこれらを使った計算を、よりよく理解したいと願っている人
- 過去に分からないままだった数学の内容について、疑問を抱き、粘り強く考えたい人
- さまざまな科学のなかで用いられる数理的な方法や捉え方に関心のある人
- 数学のなかに現れる言葉（概念）や論理のもつ特有の普遍性や美しさが好きな人

○入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程・後期日程）において次を確認します。

1. 前期日程では、大学入試センター試験で高等学校教育段階において目指す基礎学力を総合的に確認し、個別学力試験で理学部数学科での学修に対応できる能力を確認します。
2. 後期日程では、大学入試センター試験で高等学校教育段階において目指す基礎学力を数学と外国語に特化して確認し、個別学力試験で理学部数学科での学修に十分対応できるよう高等学校教育課程までの数学について高度に習熟していることを確認します。
3. 本学の全学共通教育に十分対応できる能力を備えていることについて、一般入試で課している大学入試センター試験では、題意を的確に読み取り解答を見出すための判断力と思考力を確認します。個別学力試験においては、より複雑な問題の題意を正確に把握する理解力、自らの力で解答への道筋を発見する思考力、解答を論理的に記述する表現力を確認します。

私費外国人留学生入試では、日本留学試験と個別学力検査等により、高等学校教育課程で習熟が必須とされる基礎学力ならびに日本語の読解力と聴解力を確認します。

物理学科 学士課程の3ポリシー

○教育の特色と目標

物理学は、自然現象に対する系統的な観測、実験および理論的な考察を通して、自然に潜む普遍的な法則を探る学問です。その結果、科学的な根拠を持った自然現象の解明、および新たな現象を予測することが可能になりました。物理学は、私たちの自然に対する認識を深く豊かに掘り下げると同時に、産業発展の原動力にもなっています。そして、その産物である精密で高度な実験手段が、自然科学の新たな発展に大きな影響を与えています。

物理学科では、自然界を支配する基本的な法則を物理学の両輪である理論と実験の両面から学びます。系統的に組まれたカリキュラムにより、基礎の古典物理から現代物理に至る専門知識を学び、最先端の研究を通じて論理的な思考力を養い、未解決な問題に忍耐と柔軟性を持って立ち向かうことのできる人材の育成を目指します。

○卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

所定の単位を取得することにより、以下の要件を満たした学生に、学位を授与します。

1. 全学共通教育科目の履修を通して、幅広い教養と外国語能力を習得すること、自主的総合的な判断力を養成すること、そして社会人として必要な教養を身につけること。
2. 物理学の理論的手法と実験的手法の両方を修得し、あらゆる対象から智見を得ることの

できる基礎的能力と、得られた智見を正確に伝える能力を身につけること。

○教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

物理学の対象は、素粒子・原子核の極微の世界から天体や宇宙を扱う極大の世界まで、また、超低温や高温プラズマといった極限環境の物質から室温に近い環境での物質の性質まで、森羅万象にわたります。このようにあらゆる対象から智見を得る、理論的手法と実験的手法の両方を修得するために、専門科目（講義、演習、実験）が基礎から先端まで体系化されたカリキュラムを提供しています。

1. 自ら調査・探求・検討する論理的思考力と発表による表現力や、英語による理解力・表現力など、大学での学びの基礎となる力を養うために、導入科目（物理学演習）を配置します。
2. 幅広い教養、多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力を養うために、基礎教育科目、総合教育科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目を配置します。
3. 基礎教育科目の一部を必修の基礎的な科目と位置づけ、基礎から専門科目による根幹へ、さらには先端科目へと進みます。その過程で対象から智見を得る理論的手法と実験的手法の基礎的能力を養います。
4. 現代の物理学を理解する先端科目（素核宇宙物理学、物性物理学、統計解析など）を配置し、4年生で行なう卒業研究と発表を通して、対象から智見を得る能力と得られた智見を正確に伝える能力を養います。

それぞれの講義科目の関係については、下図の「物理学科カリキュラムマップ」を参照してください。

○入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

物理学を理解する基礎学力を有する人で、以下のいずれかに当てはまる学生を求めます。

- ☐ 自然のなりたちや美しさに興味を抱いている人
- ☐ ものごとの基本原理を理解したい人
- ☐ 実験や観察に工夫をすることや、ものを作るのが好きな人
- ☐ 集中して考え続けるのが好きな人

入学試験では、次の点を確認します。

1. 一般入試（前期・後期）では、高等学校教育課程で習熟が必須とされる基礎学力、および物理学の理解に必要となる学力の確認に重みを置いた選考を行います。
2. 推薦入試では、小論文、口頭試問を通し物理学の理解に必要となる基礎学力および学習意欲を確認します。
3. 私費外国人留学生入試では高等学校教育課程で習熟が必須とされる基礎学力ならびに日

本語の読解力と聴解力を確認します。

化学科 学士課程の3ポリシー

○理学部化学科の教育の特色と目標

理学部化学科は、前身となる理工学部時代を含めて70年を超える歴史と伝統がある学科です。少人数制による質の高い教育を特色として、これまでに教育・化学産業界に優れた人材を輩出してきました。科学の階層構造の中で、化学はザ・セントラルサイエンスと位置付けられ、自然科学だけでなく社会科学分野までを含む科学全体の発展を牽引し、未来社会の発展を導く学問分野です。化学科では、バランスのとれた化学教育を行うことによって、化学の知識を社会の発展に役立て、指導的役割を果たせる国際的人材や、自然現象を分子や物質レベルで解き明かし化学原理を探究しようとする、知的好奇心にあふれる人材の育成をめざします。

○学士課程の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学士課程教育では、基本的教養と国際感覚を養うための学問を幅広く学ぶとともに、化学を含む理系学問の基礎を学びます。専門科目では化学の3つの柱である、物理化学、無機化学、有機化学をバランスよく学びます。講義と実験を通じて、化学を実践するための思考力と技術を修得し、より専門性の高い化学研究を遂行するための素養を身に着けます。所定の期間在学し、定められた単位を取得し、試験と卒業研究に合格した学生に学士の学位を授与します。そのために、以下の4項目に記された学修成果を修めることをめざします。

（知識・理解）

- ・自然現象や分子の成り立ちを分子・物質レベルから化学的に考えることができる。
- ・日本語や英語で専門書を読み、その内容を理解することができる。

（技能）

- ・化学の原理を理解し、実験を計画・遂行することができる。
- ・分子の構造と物性を分析し、解析することができる。
- ・専門的化学情報を効果的に収集・分析することができる。
- ・化学的な知見と内容を正しく他者に伝達し、コミュニケーションをとることができる。

（実践的姿勢）

- ・化学の知識を人間社会の発展に生かし、貢献することができる。
- ・知的好奇心をもって新しい化学を探究することができる。
- ・他者と協調して行動することができ、必要に応じてリーダーシップをとることができる。

(統合的な学修経験と創造的思考力)

- ・物理化学・無機化学・有機化学の知識を統合し、自ら課題を設定し、さまざまな角度から検証する手段と方法を思索・立案することができる。

【化学科学士課程の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

4年間の全学共通教育と化学科カリキュラムマップに示す専門教育を通じて、化学の専門知識・概念を涵養します。

- 1.全学のカリキュラム・ポリシーに沿って、また理学部化学科が定める履修規程にしたがって、全学共通教育科目の中から講義科目を選択し、受講します。これにより、豊かな人間性と社会性と国際社会で通用する語学力を身に着けるとともに、人間・地域・社会・自然に対する理解を深め、広い科学的視野から化学を探究する基礎力を修得します。
- 2.化学に関する専門知識・概念を涵養するために、物理化学、無機化学、有機化学の専門講義をバランスよく履修します。
- 3.化学実験を実践するために必要な専門的技術を修得するために、基礎化学実験・化学実験を履修します。
- 4.化学知識の活用能力、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身に着けるために、また、研究を通じて課題・問題点を論理的に分析し、その解決方法を見出す力を養うために、4年次の特別研究において最先端の化学研究を遂行し、研究成果を卒業論文にまとめ発表します。

○学士課程の入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

向学心旺盛で、化学の専門知識・概念を科学・産業・文化・社会の発展に役立てたいと考えている人や、自然現象を化学的に解明したいという知的好奇心をもった人を広く受け入れます。次の指針を理解した上で、国内外の高等学校、短期大学、高等専門学校での学びを深め、知識を広めることを期待します。

- 1.一般入試、推薦入試では高等学校教育課程で習熟が必須とされる基礎学力を確認します。
- 2.編入学では、化学科3回生の講義科目を受講しうる基礎学力を備えていることを確認します。
- 3.一般入試（後期）、推薦入試、編入学では面接または口頭試問を行うことで、学びへの意欲や主体性を確認します。
- 4.私費外国人留学生入試では高等学校教育課程で習熟が必須とされる基礎学力ならびに日

本語の読解力と聴解力を確認します。

5. 本学の全学共通教育に対応できる学力を備えていることを確認します。

6. 化学科のアドミッション・ポリシーに示す資質を備えていることを確認します。

生物学科 学士課程の3ポリシー

○教育の特色と目標

理学部生物学科は、分子生物学、細胞生物学、動物・植物生理学、発生学、動物・植物生態学、動物行動学、系統分類学などミクロからマクロ分野まで幅広く生物学を網羅しています。講義だけでなく実験・海や山での野外実習など実践的教育も広く行なっています。高学年になると自分が興味をもった研究分野を選択し卒業研究を実施します。多くの学生は大学院に進み、自分の専門研究をさらに発展させています。複数担任制をはじめ少人数教育により、きめ細かな教育指導を行っているのも本学科の特色で、これまで教育研究機関および産業界に優れた人材を輩出してきました。全学共通教育科目や専門教育科目により生物学の幅広い専門知識と創造性、柔軟な思考力を修得し、それにより生物学関連分野に留まらず、さまざまな問題を自発的に考えて解決することができる人材を育てています。

○卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

現代生物学の広範な知識を修得し、多様な問題を柔軟に解決できる人材を育成する、との本学科の理念に基づき、所定の単位を修得し、下記の能力を身につけた学生に学位を授与します。

- 全学共通教育科目の履修を通じて、基礎的学習能力と総合的判断力を身につけている。
- 専門教育科目の履修を通じて、広範で高度な生物学の知識を習得している。
- 実験科目の履修を通じて、生物学における実験技術を習得している。
- 特別研究の履修を通じて、生物学における課題を自身で発見するとともに、その課題を分析して解決できる能力、さらに研究の内容をまとめて表現する能力を身につけている。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

学位授与指針のもとに、生物学科では以下の教育課程編成指針を定めています。

- 全学共通科目により、大学教育全般に共通する基礎知識を修得し、細分化された知識を総合化して総合的・人間的な判断力を身につける。
- 専門教育科目により、近年著しい発展を遂げている生物学についての広範な理論・知識・技術を身につける。
- 推奨科目により、他の自然科学分野の知識を身につける。
- 実験科目と演習科目により、講義で得た知識を応用・発展させて実践的な研究を行う技能を身につける。

□特別研究（卒業研究）により、自らが課題を発見するとともに、その課題を分析して解決する能力を身につける。また、得られた研究成果を表現する能力を身につける。

それぞれの講義科目の関係については、下図の「生物学科カリキュラムマップ」を参照してください。

○入学受入の方針（アドミッション・ポリシー）

生物学科は、自然科学の基本原理の理解に必要な基礎学力を有する人で、次のような学生を求めています。

- 生物・生命現象に対して深い興味をもっている人。
- 生物・生命現象の法則性の解明に情熱をもっている人。
- 生物・生命現象に関わる専門知識に基づいて社会に貢献したいと思っている人。

また、入学試験は、次の方針で行います。

1. 一般入試と推薦入試では高等学校教育課程で習熟が必須とされる基礎学力を確認します。
2. 推薦入試では小論文と口頭試問を実施し、学習に対する意欲や主体性について確認します。
3. 私費外国人留学生入試では高等学校教育課程で習熟が必須とされる基礎学力ならびに日本語の読解力と聴解力を確認します。
4. 本学の全学共通教育に十分に対応できる基礎学力や学習能力を備えていることを確認します。
5. 生物学科の上記のアドミッション・ポリシーに示す資質を備えていることを確認します。

地球学科 学士課程の3ポリシー

○教育の特色と目標

地球学科では、地球の過去・現在の学際的な認識能力や未来の予測技術を持ち、地球自然と人間社会の接点にたつて環境保護や自然災害防止などに貢献する人材を養成します。

将来、地球に関係する分野で活躍するための基礎として、地球を構成する物質やその歴史の変遷を解明するのに必要な知識や方法を、講義・実習・実験と野外調査実習とを有機的に結びつけた総合的・横断的なカリキュラムで、徹底的に教育するところに特徴があります。

自然が好きで、将来、地球に関係する分野で活躍したいと希望している学生はぜひ本学科を志望してください。少人数教育の利点を生かしたきめ細かい指導によって、研究職・技術職を問わず希望分野で活躍するための専門知識と応用能力を高いレベルで修得できます。

○卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

所定の単位を修得し、次の能力を身につけた学生に学位を授与します。

(A) 地球的視点に立って、多面的に思考し行動できる能力

(A-1) 多面的に思考し行動できる能力

地球、自然、環境、人間、社会、文化、風習およびそれぞれの歴史と現状について深く理解し、地球的な視点から多面的に考える能力、人間の生産活動とくに科学技術が社会および自然におよぼす影響・効果についての認識能力を修得する。

(A-2) 国際的なコミュニケーション能力

情報化した地球社会に対応するために国際的なコミュニケーション基礎能力を修得する。

(B) 基礎的な数理科学の修得とその応用能力

数学や物理学、化学などの理科系の基礎的学問分野を体系的に学習し、理科系の基礎学力を十分に身につけ、それらを地球学分野へ応用する能力を養う。また、地球に関する基礎概念を理解し、自然科学分野の中での地球学の位置づけとその役割を認識する。

(C) 地球学専門分野の幅広い基礎的知識・技術とその応用能力

(C-1) 地球探求の意義と責任の自覚

地球についての基礎的概念の学習や地球学に関わる技術者の倫理の考察を通じて、地球探求の意義と責任（技術者倫理）を自覚する。

(C-2) 地球学分野に関する幅広い基礎的知識と技術

地球を構成する物質に関する基礎的知識や地球の歴史的変遷・探求方法を体系的に修得する。特に、鉱物や岩石を識別・分類し、その成因を解析する方法、地圏の歴史的変遷の探求法、地盤の力学特性の測定・評価法、地球情報のコンピュータ処理法の基礎を修得する。さらに地球自然と人間・社会との接点に立って、地圏の開発と防災や環境変化の予測・評価を行える基礎的知識・技術を深める。

(C-3) 地球学分野の英語能力

地球学分野の英語能力を高める。

(D) 地球学の基礎的知識・技術を野外調査に活用する能力

地形地質投影法、測量及び測地学、地球学野外実習、地質調査法などの実習を通じ

(C) で学ぶ地球学の基礎的知識や技術を野外調査に活用する総合的応用能力を修得する。また、この過程で問題解決のデザイン能力、チームワークで作業を進める能力、与えられた制約の下で計画的に仕事を進める能力、えられた結果をまとめて発表する能力などを養う。

(E) 自立した技術者・研究者としての問題解決能力と創造力

特別研究（卒業研究）を通じて、学術的課題や社会的要求を認識する能力、問題解決に向けた計画を創造的に立案する能力、与えられた制約の下で計画的に仕事を進める能力、実行結果を判断し、継続的に学習しながら改善していく能力、結果を発表するための論理的な記述力やコミュニケーション能力など、自立した技術者・研究者としての問題解決能力と創造力を修得する。

○教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

地球学科では、学位授与指針のもとに、次の教育課程を編成・実施しています。

1. 全学共通科目により、地球的視点に立って、多面的に思考し行動できる能力を身につける。
2. 基礎教育科目により、基礎的な数理科学の修得とその応用能力を身につける。
3. 専門教育科目により、地球学専門分野の幅広い基礎的知識・技術とその応用能力を身につける。
4. 野外実習やその基礎となる科目により、地球学の基礎的知識・技術を野外調査に活用する能力を身につける。
5. 特別研究（卒業研究）により、自立した技術者・研究者としての問題解決能力と創造力を身につける。

それぞれの講義科目の関係については、下図の「地球学科カリキュラムマップ」を参照してください。

○入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

地球学科は理学部の1学科として、次のような学生を求めています。

- ・地球への好奇心や探求心の旺盛な人
- ・地球の法則性を解明しようとする意欲に満ちた人
- ・地球に関係する分野で社会に貢献したいと希望している人

また、入学試験は、次の方針で行います。

1. 一般入試、推薦入試では高等学校教育課程で習熟が必須とされる基礎学力を確認します。
2. 私費外国人留学生入試では高等学校教育課程で習熟が必須とされる基礎学力ならびに日本語の読解力と聴解力を確認します。
3. 本学の全学共通教育に十分に対応できる学力を備えていることを確認します。
4. 推薦入試では面接と口頭試問を行うことで、学びへの意欲や主体性を確認します。

工学部

○理念

工学とは、安全で快適な暮らしや、人々の夢を実現するための原理や技術を創造する学問です。IT やバイオテクノロジーに代表される科学技術の多くは工学の中で開花し、社会と産業に飛躍的な発展をもたらしました。一方、現在では人類は地球環境問題など、かつて経験したことのない幾多の難問に直面し、自然との調和をめざしたソフトテクノロジーへの新たな挑戦が求められています。

高度化・多様化する最先端の科学技術の研究には豊かな教養と複数の専門分野におよぶ知識が必要です。そのため、工学部では総合大学の特色を活かした幅広い全学共通科目と、充実した専門科目が4年間を通じて履修できる教育カリキュラムを用意しました。専門教育では、学科の枠組みを超えた科目編成によって確かな基礎学力と広範な専門知識が身につくよう細かな配慮がなされています。最新の研究設備と少人数制によるきめ細かな研究指導のもと、勉学に励むことができます。

私たちは、地球環境の保全や人類の福祉等に係る諸問題の解決にむけて工学的立場から積極的に教育・研究に取り組みます。

教育研究の理念

次世代の都市の創造にむけ、地球的観点から多面的に諸問題を解決し、卓越した学術・技術そして新産業の創生などにより社会の発展に工学的に貢献します。

人材養成の理念

科学を基礎とした柔軟な工学的センスと確かな倫理観を備えた技術者・研究者を養成します。

○人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

自然科学及び数学の基礎知識を習得し、科学技術の新たな展開にも柔軟に対応できる人材を育成する。

工学における専門知識及び基礎的なデザイン能力を習得し、習得した知識や能力を実際の技術に活用できる人材を育成する。

工学的課題を論理的に思考できる人材を育成する。

日本語及び外国語による基礎的コミュニケーション能力を有する人材を育成する。

技術者・研究者として社会的使命及び責任を自覚し、倫理に基づき行動できる人材を育成する。

(機械工学科)

・原子・分子レベルのナノ・ミクロなスケールから、環境・社会などのマクロスケールまで、機械工学に関連する幅広い分野の研究と教育を通じて、様々な視点から問題を考察できる能力と、技術者としての責任感や倫理観を持つ人材を育成する。

(電子・物理工学科)

・電気・電子工学や応用物理学の教育と研究を通じて、日進月歩の高度技術社会をリードできる高い専門性や応用能力、さらに技術者としての高い倫理観を兼ね備えた優れた人材を育成する。

(電気情報工学科)

・電気工学と情報工学の教育・研究を通じ、電気情報通信技術が社会に及ぼす影響を配慮し、時代の要請に応え得る、電気・情報・通信関係の広範囲な問題に対する適応能力を習得し、さらに、未知の問題を自らの手で解決していく自主性と独創性を持った人材を育成する。

(化学バイオ工学科)

・化学技術やバイオテクノロジーを基に環境調和型の「ものづくり」に挑戦する。「ものづくり」を通じて、持続的な発展と地球環境保全が両立した豊かで安全な社会の構築に貢献する人材を育成する。さらに、化学・バイオの先端領域で活躍し、かつ技術者としての責任感・倫理観を身につけ、広く社会に貢献できる人材を育成する。

(建築学科)

・芸術・学術・技術に立脚した「総合建築教育」を特色として、「発展」から「持続」へ、「効率性」から「人間性」へという、成熟期を迎えた社会の要求や課題を的確に把握し、それらの実現や解決に対して「理論的」かつ「実践的」に対応しうるデザイナーやエンジニアを育成する。

(都市学科)

・都市固有の歴史と文化を継承・発展させつつ環境負荷を低減し、人間活動と自然環境が調和した豊かで安全・安心な「環境都市」の実現を目指して、社会の要請を的確に把握し、倫理観と責任感に基づいて主体的に行動する技術者を育成する。

○求める学生像

工学部では、社会のさまざまな課題と将来について深い関心を持ち、その課題発見と解決に貢献し、更に 21 世紀の科学技術や社会の発展に貢献しようという強い意欲と向上心に溢れる学生を、以下に示す各学科のポリシーに基づいて広く受け入れます。

機械工学科

今日の機械工学が扱う複雑な問題の解決には、様々な視点からのアプローチが不可欠となっています。そこで機械工学科では、原子・分子レベルのナノ・ミクロスケールから、環境・社会などのマクロスケールまで横断的に捉えた特色あるカリキュラムを提供し、色々な視点から問題を考察できる能力の育成をめざしています。そのため本学科では、以下のような人を求めています。

- 1.ものづくり、物理や数学、人・社会・環境に興味がある人
- 2.次世代の先端材料の開発や機械の創成に意欲のある人
- 3.機械工学を学ぶのに必要な基礎学力（特に数学，理科，外国語）を有する人
- 4.論理的にものごとを考え、自ら問題解決をはかる意思のある人
- 5.様々な人と意見交換ができ、協力して課題に取り組むことができる人

電子・物理工学科

電子・物理工学科は、電子工学や半導体工学、ナノマテリアルや物質表面構造を含む新たな電子・光機能性材料の開拓、光と物質の相互作用や光を利用した工学（物質の発光機構、太陽電池、レーザー、テラヘルツ電磁波など）、またそれらの基礎となる物性理論、と多岐にわたる先端的研究開発を支える技術者や研究者の育成をめざしており、次のような意欲的な学生を求めます。

- 1.物理学や電気・電子工学に興味があり、それを幅広い工学に応用することに深い関心を持つ人
- 2.物質、電気、光などの物理学的性質の解明と新規機能の開拓、実験的また理論的解明などの幅広い電子・物理の科学技術に強い興味を持ち、主体的かつ積極的に学習・研究する意欲に溢れた人
- 3.国際的な視野から新たな課題を見出し、それに積極的に挑戦する意欲を持つ人
- 4.日本語や英語などによるコミュニケーション、プレゼンテーション能力の向上に努め、グローバルに工学分野への貢献を目指す人

電気情報工学科

高度な情報化社会を迎え、広い視野と電気・電子・情報工学などを基礎とし、エレクトロニクス、コンピュータ、情報処理、通信、制御などの幅広い関連技術に関する柔軟な応用能力を身につけた研究者・技術者が望まれています。電気情報工学科では、電気および情報・通信関係の広範囲な問題に対処する適応能力を習得し、さらに、未知の問題を自らの手で解決していく自主性と独創性を持つ技術者・研究者の育成を目標としています。そのため本学科では次のような人を求めています。

- 1.電気工学および情報工学分野に対する興味と探究心が旺盛で、新しい分野を切り拓く技術

への研究開発に熱意のある人。意欲を持って幅広い分野の勉学ができる人。

2. プログラムや電子回路などの「ものづくり」を得意とする人、あるいは身近な情報通信機器のしくみに強い興味を持ち、より利便性が高い機器を研究開発してみたいという意欲が旺盛な人。また、電子機器やロボットの制御に興味のある人。
3. 自主・自立の精神が旺盛で、広い視野を持ち、倫理観のある人。社会の中で自分だけでなく他人をも活かす気持ちを持ち、それに向けて努力できる人。

化学バイオ工学科

化学バイオ工学科では、物質・生命およびその変化を原子・分子レベルや遺伝子・細胞レベルで理解できる基本的考え方を身につけ、化学・バイオに関わる基礎理論と技術の実際を学びます。さらに、化学・バイオの先端領域で活躍し、かつ技術者としての責任感・倫理観を身につけ、広く社会に貢献できる人材を育成することをめざしています。そのため本学科ではいずれの入試選抜方法においても、次のような人を求めています。

1. 化学・バイオについての基礎知識を理解できる能力を有し、意欲的に勉学に取り組める人
2. 化学現象や生命現象に対する興味と探究心が強く、新技術の開発に熱意を有する人
3. 実験や自然観察が好きな人
4. 論理的な記述、論理的な発表力など、研究能力とともにコミュニケーション能力を高めることに努力する人
5. 幅広い教養の習得に熱意をもち、倫理観のある人

建築学科

建築学科は幅広い分野に対応しており、以下のいずれかの素養や能力を有する多様な人材を求めています。

1. より良い人間生活と社会づくりに向けて、建築や社会の問題を解決するための幅広い知識と技術の修得に意欲のある人
2. 探究心が旺盛で、人間・社会・自然界で生じるさまざまなできごとや、それを支える仕組みに興味のある人
3. 建築という形のあるものを創り出すことや、それを実現するための学術・芸術・技術に対する興味と意欲のある人
4. 立体的な思考が得意で、ものづくりや空間への興味・関心が高く、創造力の豊かな人
5. 自分の意見を相手に伝えるコミュニケーション能力の向上に対する意欲のある人
6. 建築学に関する専門科目を習得するのに必要な一定レベルの学力があり、人文・社会科学、文化、歴史など幅広い分野に興味のある人

都市学科

都市学科では、社会の要請を的確に把握し、倫理観と責任感に基づいて主体的に行動する

「環境都市づくり」のプロフェッショナル育成を目指します。そのため、以下のような素養や能力を有する人を求めています。

- 1.社会・文化・生活などに関係する都市の多様性を理解し、複眼的な視野で物事を捉えることができる人
- 2.歴史や文化を継承しつつ機能的で美しい都市づくりに興味を持っている人
- 3.都市圏における環境の保全・再生や自然との共生に強い関心があり、自律・循環可能な都市の創出に貢献したい人
- 4.災害に強く、人々が安全・安心・快適に暮らすことができる都市を創生するための技術やマネジメントに興味を持っている人
- 5.自主的に調査・実験や演習に取り組み、環境や都市に係わる課題を認識・抽出して問題を解決することに努力をいとわない人
- 6.技術の開発・適用に必要な理数系科目だけでなく、国際的な視野と人間の行動様式に関わる語学や社会科学系科目にも興味・関心が高い人

○入学選抜の基本方針

【一般入試(前期日程)】

大学入試センター試験で、高等学校教育段階において目指す基礎学力を、個別学力検査では、工学部での学修に十分に対応できる、知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの準備性をそれぞれ確認し、調査書の内容とあわせて総合的に評価します。

【一般入試(後期日程)】

大学入試センター試験で、高等学校教育段階において目指す基礎学力を、個別学力検査等では、工学部での学修に十分に対応できる、知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの準備性をそれぞれ確認し、調査書の内容とあわせて総合的に評価します。

【推薦入試】

調査書等の出願書類、小論文及び口述試験で、学ぶ意欲と工学部での学修に十分に対応できる、基礎学力と知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの準備性を確認し、総合的に評価します。

【私費外国人留学生入試】

日本留学試験で、日本語能力及び基礎学力を、個別学力検査等では、学ぶ意欲と工学部での学修に十分に対応できる、知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの準備性をそれぞれ確認し、成績証明書とあわせて総合的に評価します。

【指定校制推薦入試】(建築学科のみ)

本学が指定する高等学校の生徒を対象に、推薦書等の出願書類及び面接で、学ぶ意欲と工学部での学修に十分に対応できる、基礎学力と知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの準備性を確認し、総合的に評価します。

○工学部各学科のディプロマポリシー・カリキュラムポリシー改訂案

●機械工学科

学位授与指針（ディプロマポリシー）

機械工学科では、所定の単位を修得することにより以下のような能力を身につけた学生は、卒業が認定されます。

- 1.幅広い教養と知識に基づいて問題を解決できるデザイン能力
- 2.科学技術の進展に寄与できる基礎学力と応用力
- 3.機械工学に関する広範な専門知識
- 4.実験等を計画・遂行し、結果を解析し、それを工学的に考察する能力
- 5.人間・社会環境の調和に対する責任感や倫理観
- 6.論理的思考能力と記述・コミュニケーション能力

教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）

機械工学は社会のあらゆる産業分野で必要とされる基盤的学問分野であり、機械技術者には確かな専門知識とともに各技術分野の特性に応じた柔軟な応用力が要求されます。そこで機械工学科では、どのような時代においても普遍的に必要な専門知識を習得し、同時に応用力の源泉となる幅広い教養を身につけた人材の育成をめざしています。機械工学はまた、このような基盤的側面のみならず最先端の技術をリードする工学領域でもあるため、本学科では現代社会の急速な変化に対応した先端工学分野の発展に積極的に貢献できる人材を育成することも目指しています。さらに、機械の技術だけでなく、グローバルな環境問題や持続的発展が可能な社会の構築などに目を向けることのできる技術者を養成することも本学科の重要な人材育成目標です。上記の人材育成を目的に、機械工学科ではカリキュラム編成において次の教育目標を掲げています。

- ・幅広い教養と知識に基づいて問題を解決できるデザイン能力の養成
- ・科学技術の進展に寄与できる基礎学力と応用力の養成
- ・機械工学に関する広範な専門知識の習得
- ・実験等を計画・遂行し、結果を解析し、それを工学的に考察する能力の養成
- ・人間・社会・環境の調和に対する責任感や倫理観の養成
- ・論理的思考能力と記述・コミュニケーション能力の養成

本学科の教育課程では、1年次ならびに2年次前半において、まず、専門科目を学習するのに必要な物理や数学などの基礎科学、国際的コミュニケーション能力の涵養に不可欠な語学、加えて幅広い教養を培う人文社会系科目などを学びます。また、専門科目として機械工学の基盤的な科目である力学系の基礎科目や機械材料学、工業数学などを学びます。2年次の後期から3年次の後期にかけて、専門性を高めるために環境・エネルギー機械、システムダイナミクス、およびマテリアルデザインの3つの重点教育分野のうち1つを集中的

に学習します。

各重点教育分野では、学生全員が修得する必修科目に加えて、その分野に関連の深い選択科目が提供されています。各重点教育分野での教育内容は、新しい時代の機械工学や材料工学の基礎を構成する学問領域に位置づけられます。機械工学の共通的な基盤科目並びに各重点教育分野の必修科目を習得し、さらに3つの重点教育分野のうち1つを集中的に学習することによって、卒業後に当面する広範で高度な問題を解決する能力を身につけることが本学科の教育の特徴です。

最終学年の4年次では全員各研究分野（研究室）に所属して卒業研究を行い総仕上げをします。

また、機械技術者としては実践力を身につけることも大変重要であることから、エンジニアリングデザイン（初年次教育科目）、機械製図、機械工学実験、装置を設計・製作し完成品のプレゼンテーションを行う設計製作実習、コンピュータプログラミング法などの実験・演習科目による実技の習得、技術者倫理や技術経営学などによる社会とのつながりの認識、および卒業研究をとおして自主性、計画遂行能力、論理的思考能力、コミュニケーション能力などの涵養をはかります。

●電子・物理工学科

学位授与指針（ディプロマポリシー）

電子・物理工学科では、卒業時に以下の能力を身に着け、かつ所定の単位を修得した学生に卒業が認定されます。

1.専門分野を習得するための基礎学力、幅広い学問に接することで育成される高い教養と広い視野。

（高い教育と広い視野）

2.科学技術分野に対する様々な広い見識を養うための、自然科学や数学の広範な基礎知識。

（自然科学の基礎知識）

3.国際社会において技術的な情報を受信・発信するための語学力と表現能力。

（語学的コミュニケーション能力）

4.未知領域の開拓に向けての基礎を固めるための、電気電子工学と物理学の専門知識。

（電子・物理工学の専門知識）

5.自主的に課題を見つけ、修得した科学・技術の知識と情報を利用し、問題点の把握、グループワーク、発表と討論などを通じて、計画的に学習・研究を進めることによって解決を図る総合的能力。

（科学技術的コミュニケーション能力、課題遂行能力）

6.社会に対して知識や技術を応用するに当たり、その専門家として取るべき姿勢、実務上の

工学的課題と専門知識の関わりに対する理解。

(技術者倫理、実務技術)

- 7.必ずしも解が一つでない課題に対して、種々の学問・技術を利用して実現可能な解を見出すために、自主的に達成の道筋を設定し、計画的に複数の学問・技術を総合応用して課題を達成できる能力。

(デザイン能力)

教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）

電子・物理工学科のカリキュラムは、基礎科目と専門科目を段階的に習得できるように編成しており、各学年に割り振られた講義・演習および実験・実習科目を順次履修することによって、電気電子工学および応用物理学分野の技術者として必要な素養が備わるように配慮されています。そして、学部 4 年間の最終段階では、課題を理解して解決する能力、結果を整理して表現する能力、自ら考えて計画的に実践できる能力を身に付けて、電気電子工学および応用物理学を専門とする自立した技術者に成長できるように計画されています。

学生自身には、これらの知識と能力を獲得すべく各科目群の学習に積極的に取り組み、卒業時には社会で活躍できる人材として巣立ち、将来は様々な分野において指導的役割を果たすことが求められます。カリキュラムの具体的な構成は、ディプロマポリシーに記載の卒業時に取得すべき能力に対応して以下ようになります。

- 1.専門分野を習得するための基礎学力の養成および、幅広い学問から高い教養と広い視野を身につけるために、教養科目（総合教育科目、健康スポーツ科目）を履修します。
- 2.自然科学や数学の知識を広く一般的に得るために、基礎教育科目（線形代数、解析、応用数学、基礎物理学など）を学びます。
- 3.外国語科目（英語、新修外国語）の履修および外書講読での発表・討論などを通して、国際社会において通用する語学力と表現能力を身につけます。
- 4.電子・物理工学の専門知識を習得するため、専門教育科目を学びます。当学科においては、電子・物理工学という分野に対する導入として電子・物理工学概論を学び、基礎教育科目を高度にした電磁気学、統計力学、工業数学、プログラミング言語を学習します。さらに、特に現代の科学技術を支える学問的基盤である量子力学、固体物理学、半導体工学、電気・電子回路学、電気・電子材料学、電気・電子計測学、制御工学、物理光学、量子エレクトロニクスに関する科目を系統的に学習します。
- 5.基礎教育科目における基礎物理学実験、および専門教育科目における電子・物理工学実験では、データの取得から解析までの一連の流れを体験的に学ぶことにより、基本的物理現象の理解・実験装置や器具の扱い方・実験結果の整理と評価法等を習得します。これらのことから、グループワーク、課題における問題点の把握、実験結果の討論、技術レポートの作成等、実験的課題を計画的に遂行するための総合力の基礎を養います。
- 6.実務上の工学的課題と電子・物理工学の繋がりに対する理解を深めるために、科学技術に

関わる専門職としての立場や責任、取るべき姿勢についての講義（技術者倫理）、技術経営、産学官連携や知的財産権についての講義（技術経営論）、および実務経験者による電子・物理工学分野関連業務における技術開発の現場と新需要の創造についての講義（電子・物理工学分野実務技術論）を履修します。

7. 電子・物理工学分野の未解決の課題に対して、複数の学問・技術を総合応用して解を見つけ出すデザイン能力を養成するために卒業研究を行います。なお、電子・物理工学実験は、卒業研究を遂行するための基礎能力を養う科目として位置付けられます。卒業研究にあたっては、さらに深く電子・物理工学の専門知識を追求するとともに、実験的・理論的技法も磨き、自身で主体的に新しいテーマに関する研究に取り組みつつ、担当教員や大学院学生との議論を重ねながら課題を遂行していく総合的能力を養います。

●電気情報工学科

学位授与指針（ディプロマポリシー）

電気情報工学科では、電気・電子回路、情報通信デバイス、コンピュータ、情報処理、通信、制御などの幅広い関連技術を基礎とし、次世代の高度情報化社会の実現をめざし、新設計コンセプトに基づく情報技術を開拓できる自立した技術者・研究者の育成を目標とします。

1. 総合的技術評価能力： 地球的かつ歴史的な視点から技術を評価できる見識
2. 技術的コミュニケーション能力： 語学力と論理的表現力に基づくプレゼンテーションとコミュニケーションの技術
3. コンピュータリテラシ： 情報処理ツールとしてのコンピュータを使いこなし、文書作成や情報収集を行う基礎的な技術
4. 基礎理論の理解とその応用： 計算機科学、情報通信デバイス工学、情報処理工学、情報通信工学の基礎となる諸理論を理解し、抽象化を通して多面的に応用する能力
5. 情報通信デバイスの基礎技術： 光演算デバイス、マイクロ波アンテナデバイス、情報入出力デバイスなど情報通信デバイスを設計・解析する能力
6. 情報処理システム構築： コンピュータに代表される情報処理システムをモデル化して解析し、設計する能力
7. 通信ネットワークシステム構築： インターネットに代表される通信ネットワークシステムをモデル化して解析し、設計する能力
8. 問題点の発見とその解決手法の開発： 社会のニーズを理解して問題点を発見する能力、およびその本質を抽象化して解決手法を考案する能力

教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）

技術の進化が著しい電気情報工学分野では、特定の分野に対する専門的な知識だけでなく、関連する学際分野への応用力、他分野との連携を含めた高度な思考力が要求されます。そしてこのような応用力を身につけるためには、数学、物理学をはじめとする基礎的学力が必要

不可欠です。さらに、ネットワークを通じグローバルな活躍が期待される情報通信技術者には、英語をはじめとする国際的なコミュニケーション能力を必要とします。一方、専門知識を持った技術者は、社会的、歴史的視野から技術を評価する能力を持つことが要求され、技術知識と同時に幅広い教養と高い倫理性が求められます。

電気情報工学科のカリキュラムは、以上の社会的人材育成要求に十分対応し、4年間で電気情報関連分野の技術者として自立できるように配慮され、さらに高度な大学院教育を受ける基礎教育としても十分な内容を持っています。カリキュラムの具体的な構成は以下の通りです。

- ・総合教育科目（人文・社会科目）および健康スポーツ科目を提供し、高い教養と幅広い視野を身につける。また、技術者倫理により高い倫理性を養う。
- ・数学（線形代数、解析）および基礎物理学などの基礎教育科目を提供し、工学の技術者として必須の自然科学分野における基礎学力を養成する。
- ・外国語科目および卒業研究を通じ、国際的な視野、グローバルな語学力およびコミュニケーション能力、表現能力を身につける。
- ・電気情報工学の専門的な知識を取得するため、電気工学、情報処理工学および情報通信工学に関連する専門教育科目（講義、実験・演習）を提供する。実験および演習は、電気情報工学に関連するさまざまな課題に取り組み、電気・電子・情報の基礎的な理解と素養の向上、および、課題解決の方法を自ら設定し、論理的思考で結論を導ける能力を養う。
- ・卒業研究を行い、自ら設定した未解決な研究課題のもと、問題解決に必要とされる専門知識の集積と論理的展開能力を駆使し、課題を解決して成果をまとめることができる総合的な能力を養う。

●化学バイオ工学科

学位授与指針（ディプロマポリシー）

化学バイオ工学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業が認定されます。

1.技術者・研究者としての倫理を有する能力

科学技術が環境、社会、資源、安全性にどのような影響を及ぼすかを理解できると共に、技術者・研究者としての責任を自覚し、行動し得る素養、さらには自国並びに他国の文化、社会、経済を理解し、物事を地球的・国際的視点から考え得る能力を身につける。

2.教養知識とコミュニケーション能力

全学共通教育の多面的履修を通して、幅広い教養と国際コミュニケーション能力を身につける。

3.工学基礎知識とその応用能力

数学、物理、情報および工学技術に関する基礎知識を自主的・継続的に学習し、問題解決に利用できる能力を身につける。

4.専門知識とその応用能力

物理化学、有機化学、無機化学、分析化学、高分子化学、生化学、分子生物学、細胞生物学、微生物学の基礎知識を自主的、継続的に学習できる能力、および化学工学の基礎知識を自主的、継続的に学習できる能力を獲得したうえで、化学もしくは生命科学に関する専門知識と実験技術を習得し、それらをもとに問題を解決できる能力を身につける。

5.データの収集、解析、およびその結果を表現する能力

社会あるいは自身を取り巻く状況の変化や必要に応じて、幅広い学習を自主的、継続的に行い得る能力、技術者・研究者として与えられた課題を経済性、安全性、信頼性および社会や環境への影響を考慮し、それらの解決のためにデータを収集し解析する能力、さらには得られた結果を正確に伝達するために日本語により理論的に記述できる能力、プレゼンテーションできる能力、および日本語、英語を問わずコミュニケーションできる能力を身につける。

6.問題を解決する能力

自ら積極的に社会の要求や問題を見出し、それらを基礎及び専門知識を総合して分析し、解決、設計、提案する能力、さらに技術的および社会的な制約の下で仕事を計画的、継続的に遂行し、完成させ得る自立した技術者・研究者となるための能力を身につける。

教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）

化学バイオ工学科教育課程では、化学と生命科学をそれぞれ網羅的に学ぶだけではなく、1年次、2年次に、これらを同時に習得する意義と両者に共通する基礎科目をしっかりと学び、学年次の進行と共に、学生が志望する進路に合わせて、化学と生命科学のいずれかの専門性を高めることができるよう配慮し編成しています。1年次、2年次には、自立した技術者・研究者になるための基本力を身につけるための演習科目を設置しています。これによって、化学と生命科学を基盤とする基礎学力に優れた卒業生を社会に送り出すことができます。また、本学大学院工学研究科化学生物系専攻へ進学することによって、研究・開発能力をより一層向上させ、高い専門性を持った技術者・研究者として社会で活躍できる人材を養成します。

1.広範で多様な基礎的知識と基本的学習能力、外国語によるコミュニケーション能力の獲得のため、全学共通教育として、外国語科目、総合教育科目、健康・スポーツ系科目を提供する。

2.1 年次および 2 年次前期は主として化学と生命科学に関する基本的科目を設置する。1 年次前期の化学バイオ工学概論は、化学と生命科学について学ぶための導入科目であり、化学と生命科学を両面から学ぶ意義について講義する。また、化学バイオ工学演習 A、B は、論文読解力、発表力、報告書作成力などを高めるための科目とする。

3.2 年次後期から、化学系および生命科学系の専門科目を重点的に提供する。化学と生命科学の科学的・技術的接点について学ぶために、化学バイオ工学論を実施する。2 年次後期

までに提供する科目は、すべての学生が一律に履修可能とする。さらに 2 年次後期は、3 年次以降に重点をおいて履修する学問分野、すなわち化学および生命科学のいずれかの学問分野をより深く学ぶための準備期間とする。

4.3 年次には、各教員が指導しながら履修内容を計画・立案させ、より高度で特色ある専門性を身につけるための専門科目を提供する。3 年次は、4 年次における化学バイオ工学特論と卒業研究を実施するための準備期間とする。

5.4 年次には、化学バイオ工学特論と卒業研究を必修とし、丁寧な個別指導を行う。

●建築学科

学位授与指針（ディプロマポリシー）

建築学科では、所定の単位（全学共通科目 59 単位以上、専門教育科目 77 単位以上、総計 136 単位以上）を修得することにより、以下のような能力を身につけた学生は、卒業が認定されます。

1.人類社会と自然環境に対する技術者としての自覚と責任を理解する能力

（社会生活の中で遭遇するさまざまな事柄に対し、的確に判断し適切な行動を選択するための幅広い教養と多面的な洞察能力、及び技術が社会や環境に及ぼす影響を予測し対処する技術者特有の倫理観）

2.数学、情報技術を含む工学基礎知識とその応用能力

（専門科目を理解する上で必要な基礎知識と技術者として持続可能な生活空間を創造するための知識とその応用能力）

3.国際コミュニケーション基礎能力

（建築技術の高度化とグローバル化に対応するために必要な国際的なコミュニケーション能力と物事を論理的に思考する能力、および的確な表現能力）

4.建築学および関連分野の基礎知識の修得

（建築計画・歴史、建築環境・設備、建築構造、建築生産に関する基礎知識とそれらを表現する能力）

5.建築学および関連分野の専門知識とその応用能力

（建築に関わる課題に対し、積極的かつ計画的に取り組み、各領域の専門知識及び種々の科学技術、情報を統合して応用する能力）

6.持続可能な生活空間を創造できるデザイン、エンジニアリング能力

（建築に関わる社会的・環境的諸課題に対し、自主的かつ継続的に学習し、各領域における基礎知識と専門知識を統合活用して、その解決のための具体的かつ総合的な計画を論理的に作成する能力）

教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）

建築学科では一人一人の個性・感性・知性を磨き、柔軟に発想する力を高めるよう「少人数教育」により「建築総合教育」を実践しています。地球環境時代を迎えて、建築は新しい局面に直面しています。これまでのようなスクラップアンドビルド（壊して造る）ではなく、省エネルギーや既存の建築資産の活用を考慮した持続可能なデザイン、すなわち、工学・技術・芸術に立脚した人文・社会領域にまたがる要求に総合的に対応する能力が求められています。そこで本学科では、設計・計画、環境・設備、構造・材料・防災の各専門領域を通じて総合的な学習・教育を実施し、持続可能な社会の生活空間を創造できるデザイナー、エンジニアの育成をめざしており、ディプロマポリシーに記載している卒業時に習得すべき能力に対応した以下の学習・教育目標を設定しています。

- (A) 技術者としての人類社会と自然環境に対する自覚と責任を理解する能力
- (B) 数学、情報技術を含む工学基礎知識とその応用能力
- (C) 国際コミュニケーション基礎能力
- (D) 建築学および関連分野の基礎知識の修得
- (E) 建築学および関連分野の専門知識とその応用能力
- (F) 持続可能な生活空間を創造できるデザイン、エンジニアリング能力

●都市学科

学位授与指針（ディプロマポリシー）

都市学科では、所定の単位を修得することにより以下のような能力を身につけた学生に、学士学位を授与します。

- 1.人文・社会科学分野の幅広い基礎学力を習得し、技術者の備えるべき社会に対する責任感と倫理観を身につける。
(幅広い教養と技術者倫理の習得)
- 2.環境都市実現に向けた工学的・技術的な取り組みに不可欠な数学・自然科学分野の基礎学力を持つ。
(数学・自然科学分野の習得)
- 3.都市の計画とデザイン、環境の保全と再生、および安全防災に関わる基本理念を身につける。
(基本理念の習得)
- 4.環境都市を実現するための工学的専門知識を身につけ、それらを応用できる論理的思考力を持つ。
(専門知識と論理的思考力の習得)
- 5.都市環境の現状を正しく評価するための調査や実験を計画・遂行し、得られた結果を専門的知識と結びつけて正確に分析することができる。
(調査・実験を計画・遂行・分析する能力の習得)

6.地域や社会のニーズをくみ取り、習得した知識や技術を用いて、環境都市の実現に向けた具体的な提案をまとめることができる。

(デザイン能力の習得)

7.都市に関わる諸問題の解決へ至る一連のプロセスと得られた結果を論理的に記述・発表でき、質疑に対する適切な対応ができる。また、国際的コミュニケーションの基礎能力を持つ。

(表現力とコミュニケーション能力の習得)

8.環境都市実現に向けて自主的に課題を認識・提起でき、与えられた制約の下で解決する能力、および継続的に学習できる能力を持つ。

(問題解決能力、自主的・継続学習能力の習得)

教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）

都市固有の歴史と文化を継承・発展させつつ、環境負荷を低減し、人間活動と自然環境が調和した豊かで災害に強い安全・安心な都市「環境都市」を実現するためには、グローバルな視野を持ち、複眼的に物事を捉えることができるプランナーとエンジニアを養成することが重要です。都市学科では、都市デザイン、環境創生、安全防災の3つの領域を軸とした総合的な教育を行って、社会の要請を的確に把握し、倫理観と責任感に基づいて主体的に行動する「環境都市づくり」のプロフェッショナル育成をめざした以下のようなカリキュラムを提供しています。

カリキュラムは、全学共通科目と専門教育科目で構成しています。

全学共通科目は、総合教育科目（社会・人文系科目）、外国語科目、健康スポーツ科目、基礎教育科目（数学・物理・化学・生物・地球学科目）から成り立っています。これらの科目は、

1. 幅広い教養、2. 数学・自然科学分野の基礎学力、7. 国際的コミュニケーションの基礎学力を身に付けるために提供されます。専門教育科目は主として、3. 基本理念、4. 専門知識と論理的思考力、5. 調査・実験を計画・遂行・分析する能力、6. デザイン能力、8. 問題解決能力を身につけるために提供されます。

専門教育科目は、「都市デザイン領域」、「環境創生領域」、「安全防災領域」を軸として、これらの領域に共通する必修科目、各領域の基礎科目である選択必修科目、各領域の応用科目である選択科目から成り立っています。

このようなカリキュラムを通して、「環境都市づくり」に必要な要素技術と、それらを総合的に利用して計画・設計・保全する技術を習得し、多種多様な都市問題を工学的に解決することができる人材を育成します。

医学部医学科

○理念

医学部は1944年4月に設立された大阪市立医学専門学校から始まり、大阪市立医科大学を経て、大阪市立大学医学部となり、現在大阪市にある唯一の大学医学部です。最近の医学医療のめざましい進歩に対応するために、阿倍野キャンパスの整備・充実が行われ、1998年の新学舎の完成とともに、医学部の専門教育に対する施設、設備が一新され、基礎医学部門に関連した実習設備、臨床実習前に模擬的に医療体験、実習を行うスキルスシミュレーションセンター(SSC)などは、全国でトップレベルに達しています。

医学部を志す方は、医学部学舎の入り口にある、智・仁・勇の三女神像を見てください。智の女神は左手で本を抱き、仁の女神は両手で薬壺をしっかりと支え、勇の女神は月桂樹を持っています。三女神が皆さんに伝えたいもの、それは医師として高度の医療知識と技術の修得、それに培われた行動力、そして人のもつ悩みや痛みを深く温かく受け入れる心をもつことです。医学部医学科はこの理念をもつ医師の養成を目指しています。

智・仁・勇の基本理念のもとで、人のもつ悩みや痛みを受け止めることができ、深く暖かい心をもった、高度な医療を実践する人を育てます。

最先端の創造的な医学研究を達成できる、世界的に活躍する研究指導者を育てます。

○人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

人を分け隔てなく、温かく受け入れる心を持つ医師を育成する。

最新の基礎医学と臨床医学をバランスよく修得し、実践する能力を持つ医師を育成する。

科学的思考に基づいた判断力・問題解決能力を備えた医師を育成する。

国際的視野を持ち、人類に貢献する高い志を持つ医師を育成する。

市民の保健医療ニーズに応えうる医師を育成する。

○学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

医学部学舎玄関前には三女神像が並んでいます。この女神像は「智・仁・勇」の三つの基本理念を示しています。すなわち、本を抱く「智」の女神のように医学に対する旺盛な向学心を持ち、薬壺を持つ「仁」の女神のように人への尊厳を有し、月桂樹を手にする「勇」の女神のように医療を実践するための決断の勇気を持つ医療人を育成することが、本学の使命です。

この「智・仁・勇」を有する医療人を育成するという使命を果たすために、大阪市立大学医学部卒業時に獲得すべき実践的能力を、以下の通りコンピテンスとして決めました。このコンピテンスを修得するものに、学士の学位が授与されます。

	◆大阪市立大学医学部医学科コンピテンス◆	
I	プロフェッショナリズム	(智、仁、勇)
II	コミュニケーション力	(智、仁、勇)
III	医学および関連領域の知識	(智)
IV	基本的総合診療能力	(智、仁、勇)
V	科学的探究心	(智)
VI	教育マインド	(仁)
VII	グローバルシンキング	(智、仁)
VIII	大阪住民の幸福と発展への貢献力	(智、仁、勇)

○教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーで定めたコンピテンスを獲得するために、医学部医学科では全学共通教育・基礎医学教育（主に1～3年生）、社会医学教育ならびに臨床医学教育（主に4～6年生）を行っています。将来、「智、仁、勇」を備えた医師になることを自覚させるために、入学後早期から、医療現場に触れさせる機会を創出しています（早期臨床実習）。

4～6年生には Clinical Clerkship（CC）を実施し、学生が医療チームの一員として実際の診療に参加し、より実践的な臨床能力を身に付け、科学的思考に基づいた判断力・問題解決能力を備えた医師を育成する事を目的としています。

（全学共通教育）

全学共通教育は将来、社会人として役立つ素養を身につける（プロフェッショナリズム【智、仁、勇】）とともに、専門教育に対応できる下地を 学ぶものと位置付けています。

（基礎医学教育）

基礎医学では、まず人体の構造と機能のしくみを分子レベルから個体レベルまで総合的に学びます。次に病気の原因、本態やその機序を系統的に学習します(医学および関連領域の知識【智】)。また、細菌、ウイルス、医動物などの病原性、その感染機序、ならびに生体の免疫機構を学び、さらに薬物療法の基礎を学びます（医学および関連領域の知識【智】）。

（社会医学教育）

社会医学では、健康事象の地域的・経年的分布、生活環境要因の健康への影響、地域・国・世界の保健システムとその役割（グローバルシンキング【智、仁】）、および法的問題と関わる心身の変化、反応、病的現象や障害などを学習します(医学および関連領域の知識【智】)。さらに将来、医師として必要な幅広い知識と教養を身につけます（プロフェッショナリズム【智、仁、勇】）。

修業実習は3年生の終わりの6週間、基礎・社会医学系教室や研究室に学生を配属して実施され、教員の指導のもとに、特定のテーマについて学生が自ら研究します（科学的探究心【智】）。

（臨床医学教育）

臨床系の臓器別講義は4年生から始まります（医学および関連領域の知識【智】）。その後、臨床実習に必要とされる技能を学習し（基本的総合診療能力【智、仁、勇】）、共用試験 CBT（知識を問う試験）、及び OSCE（態度、技能を問う試験）を受験します。

試験合格後、外来臨床実習（外来型 CC）に進みます（コミュニケーション力【智、仁、勇】）。5年生では、全ての診療科を5つのユニットに分け、ローテートする参加型臨床実習（ユニット型 CC）を行います（基本的総合診療能力【智、仁、勇】）。ユニット型 CC では、臨床研修医になった時に、少しでも臨床を円滑に実践できるように講義時間を最小限に留めて、実習時間を増やしています（コミュニケーション力【智、仁、勇】）。

6年生になると、さらに幅広い臨床技能を修得し、医療現場での経験を充実させるために、医学部附属病院、ならびに教育関連病院での選択型 CC があります（大阪住民の幸福と発展への貢献力【智、仁、勇】）。選択型 CC は前期6週間、後期6週間の2回実施しています。選択型 CC を海外の病院で受ける事もできます（グローバルシンキング【智、仁】）。選択型 CC における教育関連病院および診療科の選択と調整に関しては、学生の自主性を尊重しています（プロフェッショナリズム【智、仁、勇】）。

○教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーで定めたコンピテンスを獲得するために、医学部医学科では全学共通教育・基礎医学教育（主に1～3年生）、社会医学教育ならびに臨床医学教育（主に4～6年生）を行っています。将来、「智、仁、勇」を備えた医師になることを自覚させるために、入学後早期から、医療現場に触れさせる機会を創出しています（早期臨床実習）。

4～6年生には Clinical Clerkship（CC）を実施し、学生が医療チームの一員として実際の診療に参加し、より実践的な臨床能力を身に付け、科学的思考に基づいた判断力・問題解決能力を備えた医師を育成する事を目的としています。

（全学共通教育）

全学共通教育は将来、社会人として役立つ素養を身につける（プロフェッショナリズム【智、仁、勇】）とともに、専門教育に対応できる下地を 学ぶものと位置付けています。

（基礎医学教育）

基礎医学では、まず人体の構造と機能のしくみを分子レベルから個体レベルまで総合的に学びます。次に病気の原因、本態やその機序を系統的に学習します(医学および関連領域の知識【智】)。また、細菌、ウイルス、医動物などの病原性、その感染機序、ならびに生体の免疫機構を学び、さらに薬物療法の基礎を学びます（医学および関連領域の知識【智】）。

（社会医学教育）

社会医学では、健康事象の地域的・経年的分布、生活環境要因の健康への影響、地域・国・世界の保健システムとその役割（グローバルシンキング【智、仁】）、および法的問題と関わる心身の変化、反応、病的現象や障害などを学習します(医学および関連領域の知識【智】)。さらに将来、医師として必要な幅広い知識と教養を身につけます（プロフェッショナリズム【智、仁、勇】）。

修業実習は3年生の終わりの6週間、基礎・社会医学系教室や研究室に学生を配属して実施され、教員の指導のもとに、特定のテーマについて学生が自ら研究します(科学的探究心【智】)。

（臨床医学教育）

臨床系の臓器別講義は4年生から始まります(医学および関連領域の知識【智】)。その後、臨床実習に必要とされる技能を学習し(基本的総合診療能力【智、仁、勇】)、共用試験 CBT(知識を問う試験)、及び OSCE(態度、技能を問う試験)を受験します。

試験合格後、外来臨床実習(外来型 CC)に進みます(コミュニケーション力【智、仁、勇】)。5年生では、全ての診療科を5つのユニットに分け、ローテートする参加型臨床実習(ユニット型 CC)を行います(基本的総合診療能力【智、仁、勇】)。ユニット型 CC では、臨床研修医になった時に、少しでも臨床を円滑に実践できるように講義時間を最小限に留めて、実習時間を増やしています(コミュニケーション力【智、仁、勇】)。

6年生になると、さらに幅広い臨床技能を修得し、医療現場での経験を充実させるために、医学部附属病院、ならびに教育関連病院での選択型 CC があります(大阪住民の幸福と発展への貢献力【智、仁、勇】)。選択型 CC は前期6週間、後期6週間の2回実施しています。選択型 CC を海外の病院で受ける事もできます(グローバルシンキング【智、仁】)。選択型 CC における教育関連病院および診療科の選択と調整に関しては、学生の自主性を尊重しています(プロフェッショナリズム【智、仁、勇】)。

医学部看護学科

○理念

大阪市立大学の看護教育は50余年の歴史を持ち、「変わらざる“慈愛の光”ともし継ぎて」の精神を培ってきました。その精神を引きつぎ、豊かな人間性と想像力を育み、高度の専門知識と技術を備えた看護職者を育成します。

学習環境の特徴は、大阪市内にあり交通の利便性を兼ね備えていること、公立大学では最大規模の総合大学で、医学研究科・医学部や医学部附属病院が近くにあり、教育・研究の環境が整っていることです。看護職者の自己向上欲求や知的向上心を充足させていくための場として適した環境を有しています。

○人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

教育目的：

生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性を培い、変化する社会に対応できる総合的看護実践能力と、基礎的な指導・調整能力を備えた看護職者の育成を目的とする。

教育目標：

幅広い教養と倫理的態度を兼ね備えた人間性豊かな看護職者を育成する。

科学的思考に基づいた判断力・問題解決能力を備えた看護職者を育成する。

保健・医療・福祉における高い臨床能力と基本的な指導・調整能力を備えた看護職者を育成する。

大阪市の地域性をふまえ、市民の保健医療ニーズに応えうる看護職者を育成する。

国際化・情報化へ対応しうる看護職者を育成する。

生涯学習を支援し、看護学の専門性を探求する看護職者を育成する。

○学位授与の指針（ディプロマ・ポリシー）

看護学科では、所定の単位を修得し、下記の要件を満たした学生について、学士（看護学）の学位を授与します

- 1.幅広い教養と高い専門知識・技術を習得している
- 2.科学的根拠に基づいた問題解決能力と、看護実践能力を身につけている
- 3.対象を全人的に理解し、個々の価値観や主体性を尊重しながら健康と生活の質を高めることができる
- 4.豊かな人間性と基本的倫理観を持ち合わせている
- 5.医療・保健・福祉の連携や協働を理解し、マネジメント能力が培われている
- 6.看護学の専門性を探究する研究的姿勢を持ち、生涯を通して自らを高めることができる

7.国際的視野を持ち、諸外国の医療・保健・福祉の問題に関する知見を身につけている

○教育課程・実施編成方針（カリキュラム・ポリシー）と学修マップ

看護学科では、人材育成の目標に基づき、ディプロマポリシーを実現するために、次のようにカリキュラムを編成しています。

- 1.幅広い教養が身に付くように、多様な全学共通教育科目を設置している
- 2.科学的根拠に裏付けられた看護を実践できる能力を修得できるように、専門基礎科目、専門科目を少人数教育にて実施している
- 3.知識の活用能力、論理的思考力、問題解決能力、表現能力、コミュニケーション能力が習得できるように教育を展開する
- 4.豊かな人間性と基本的倫理観を涵養し、看護の対象となる人の全人的理解に役立つ科目を配置している
- 5.次世代の看護リーダーに不可欠なマネジメントの基礎能力や他職種との連携能力、国際性を習得できるよう科目を配置している
- 6.すべての科目を、学びの順序性を考慮して段階的に配置している

○入学者受入の指針（アドミッション・ポリシー）

看護学科では、幅広い教養と高い倫理観を持った人間性豊かな看護職者の育成をめざしています。そのために、次に挙げるような学生を求めます。

- ・人間やその生活に深い関心がある人
- ・幅広い基礎学力を備え、目的意識を持って積極的に学ぶ姿勢のある人
- ・協調性をもって、他者とともにまたはチームで行動できる人
- ・看護の実践をとおして保健・医療・福祉の向上に寄与する意志を持っている人

<入学者選抜の基本方針>

【一般入試(前期日程)】

大学入試センター試験で、高等学校教育段階においてめざす基礎学力を、個別学力検査では、看護学科での学修に十分に対応できる、知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの準備性をそれぞれ確認し、調査書の内容とあわせて総合的に評価します。

【推薦入試】

志望理由書等の出願書類及び大学入試センター試験で、学ぶ意欲と看護学科での学修に十分に対応できる、基礎学力と人物・能力・資質などの準備性を確認し、総合的に評価します。

【学士・社会人入試】

筆答試験及び口述試験で、学ぶ意欲と看護学科での学修に十分に対応できる、知識に基づいた思考力・判断力・表現力などの準備性を確認し、総合的に評価します。

医学部看護学科学修マップ

4年	専門科目 看護の統合と発展 8単位以上 看護研究方法論 看護マネジメント 国際看護論 卒業研究 統合看護実習	専門基礎科目 看護師教育課程履修者 34単位以上 保健師教育課程履修者 35単位以上
	専門科目 看護学の理論と実践 看護師教育課程履修者 48単位 保健師教育課程履修者 58単位 社会の医療ニーズに対応できるように看護の理論に基づき、 看護職者としての必要な基礎力を養う 成人看護学 老年看護学 精神看護学 母性看護学 小児看護学 在宅看護学 公衆衛生看護学 臨地実習（各論実習）	人間科学 健康基礎医学 保健社会学 医療援助学
3年		
2年	専門科目 看護学の基盤 13単位 基礎看護学 臨地実習 ・早期体験実習 ・基礎看護学実習	
1年	基礎科目 全学共通教育科目 24単位以上 外国語科目 総合教育科目 基礎教育科目	

生活科学部

＜求める学生像＞

人間生活の多様な側面を科学的に追究し、研究や実践を通じて、現代社会における生活問題の改善や解決、新しいライフスタイルの提案や構築、人々の生活の質の向上に貢献する意欲を持つ人を求めます。

【食品栄養科学科】

■ 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学科の人材養成目標は、基本的教養と国際感覚を身につけ、専門知識と総合知識の双方を基礎とする思索力、理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力および品性を兼ね備えた人間を養成することである。これにより、食と栄養と健康に関して社会の指導的立場を担う管理栄養士・研究者・技術者を養成します。

本学科では、全学共通科目の履修を通じて基本的教養と国際感覚を習得し、学科基礎科目の履修を通じて専門分野に関する基礎的な知識・技能等を習得し、これに続く学科専門科目の履修を通じて、高度な知識・技能等を習得し、所定の期間在学して所定の単位を取得した学生に学位を授与します。

（知識・理解）

・専門科目の履修により、食品や栄養と健康との関係に関する知識を体系的に学び、それに基づき柔軟な思考ができる。

（技能）

・食資源の確保から衛生的な取り扱いと加工調理に至るまで、食生活を通じて生活の質の向上に寄与することができる。

（実践的姿勢）

・学科を横断する学際的学習を通じて、食を中心としながらも、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を持ち、個人から地域コミュニティ、更にはグローバルな観点から現代生活を捉え、問題解決に向けて正確な情報を収集し、実践応用することができる。

（統合的な学修経験と創造的思考力）

・これまでに修得した知識・技能・実践力等を、総合的に活用し、食と栄養、健康科学に立脚し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。

■ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪市立大学のカリキュラム・ポリシーを踏まえ、学科のディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果に示された知識・技能等を修得できるように、次の科目群を全学共通教育科目、学科基礎科目、学科専門科目として設置する。学生には、専門家養成に不可欠な必修科目を必ず履修するとともに、自らの学修意欲と興味関心、キャリアデザインに応じ、学部が定める履修規程に従って受講科目を選択させる。

(1) 本学部での学びの導入である生活科学演習と学科での学びの導入である食品栄養科学概論等の初年次教育科目

(2) 総合教育科目、基礎教育科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目（全学共通科目）

(3) 専門教育を事項するにあたって不可欠な基礎事項を修得する基礎教育科目（全学共通科目）

(4) 食品栄養科学の専門家を養成するに必要な専門基礎の講義と実習

(5) 食品栄養科学の専門家を養成するに必要な実地体験（臨地実習）を含む講義、実験、実習

(6) 自らの学びの成果を具現化する卒業論文研究と演習

なお、上記専門的教育にのみに特化することなく、大阪市立大学のカリキュラム・ポリシーに則り、総合大学の利点を生かしたカリキュラムを設置する。

1. 地域に基盤を置く公立大学で学ぶ学生としての意識を涵養するため、地域志向系科目をすべての学生が履修できるように学士課程全体を通じて配置する。

2. 社会の一員としての意識や国際的な視野を持ち、グローバル化し、多様化する社会の変革に積極的に関与する上で知識・技能を身につけるために、体系的な教育プログラム（副専攻等）を履修できるようにする。

以上により、本学部並びに本学科の特色に応じた、4年間の学修を統合的に総括する教育を行う。

■ 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

本学科では、学科の学修成果を修める学生を育成して教育目標を達成するために、大阪市立大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の入学者受入れの方針を設定し、優れた資質を有する学生を、広く国内外から受け入れます。

(1) 高等学校教育段階で設定されている数学、理科、外国語の基礎学力と応用力を確認します。

(2) 本学の全学共通教育や本学部内の横断的な科目の履修に対応できる幅広い基礎学力を確認します。

(3) さらに、本学科のディプロマ・ポリシーを達成し得る資質として、小論文や面接などを課す多様な入試選抜も行い、以下の様な項目を確認します。

- 1) 食品と栄養に関する分野に関心が高く、探究心旺盛で、論理的な思考力をもとに、将来、食と栄養の分野で活躍する熱意。
- 2) 環境や社会の仕組み、現代社会の食と栄養がヒトの健康に与える影響に関心があり、食生活に起因する諸問題を解決したいという意欲。
- 3) 病院、行政、小中学校における栄養学の実践に対する興味。
- 4) 大学院等で、さらに高度な専門的知識と能力を身につけ、大学教員、高度専門技術者や指導的立場を担う臨床栄養士を目指す意志。

【居住環境学科】

■ 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学科は、住居学・建築学分野の基礎的で広範な知識、能力を身につけ、住宅・建築産業のなかで、生活者の視点をもって活躍する技術者の育成を目標とし、所定の単位を取得することにより、以下のような要件を身につけた学生に、学士学位を授与する。

- A. 人間生活と社会、文化、環境と健康に関する総合的理解と、バランスのとれた判断力
- B. 住宅・環境・建築技術者に必要な自然科学や情報技術の知識・理解力
- C. 居住生活・居住空間に関する幅広くて深い理解と高度な計画能力
- D. 住宅、建築、地域環境の技術、及び関連分野の技術に関する知識と応用能力
- E. 快適で美的な空間を設計しデザインするための創造的能力と、それらを伝達するための製図・模型作成技能
- F. 居住空間・環境における課題を発見し、与条件のもとで企画・立案・実行を行う実践的能力
- G. 共同作業や実務に役立つ論理的プレゼンテーション能力と、他者と協調して行動し、リーダーシップを取ることができるコミュニケーション能力

■ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科では、4年間の学士課程によって、今日の技術者に求められる以下1～5の基礎的素養から各種の専門的な知識・技術を学ぶと共に、それらを総合して、6. 総合的なデザイン力を修得し、主体的に課題解決に向けて取り組む力、またそのために不可欠となるプレゼンテーション、及びコミュニケーション力といった技能を身に付ける。学ぶべき専門知識には、身の回りの生活用具やインテリアから、住宅、建築、居住地（地域）、都市に至る多様なレベルでの計画、設計、管理に関する理論と技術の学修が含まれる。

1. 基礎的素養（主としてディプロマ・ポリシーA、Bに対応）

人が居住することの意味を考え、まず人間とは何かを考えるための基礎的素養を身につける。人間とは何かを考える上での手がかりとなる哲学、倫理学、心理学、文学、社会学、経済学、法学などの基礎的知識を学ぶ。さらに美しい空間や物をつくるために必要な美学・心理学などを学ぶと共に、各種実習などを通して美的感性（センス）を磨く。統合的な学習経験を積み、創造的思考力を身につけるために、教養科目、及び基礎科目を配置する。

2. 住む人・使う人の視点から考える（主としてディプロマ・ポリシーCに対応）

住む人、使う人の立場に立ち、人の生活、住み方や行動、動作、心理・生理などの特性を学ぶ。その理解を基に、都市空間や居住地（地域）、住居などの居住環境に対する要求を把握し、さらにその要求を居住環境の設計・計画に反映させる技術を習得する。居住環境に対する要求を把握するには、生活実態への深い理解と調査研究の裏付けが必要であると共に、居住環境の歴史、文化についての理解が必要である。これらは現代人の諸要求を考える手がかりになり、将来を展望するのに役立つ。これらの知識・技術を修得するために主として計画系の専門科目を配置する。専門知識を問う一般的な試験に加え、問題意識、論理的な展開を測る論述試験、レポートによって、学修成果を評価する。

3. 居住環境をめぐる社会の制度や仕組み（主としてディプロマ・ポリシーCに対応）

都市空間や居住地（地域）、住居などの居住環境の計画や管理に関わる制度や仕組みについて学ぶ。都市社会には、人々が共同で生活していくための種々の制度や仕組みがあり、住宅・建物はそれらの存在を前提につくられ、その影響を強く受けている。良好な住まいを確保できないなどの住宅問題に対し、その問題の特質や発生するメカニズムを理解する実践的姿勢と共に、その改善に必要な制度や施策を立案できる計画技術を修得する。これらの知識・技術を修得するために、法規や制度に関わる専門科目を配置する。専門知識を問う一般的な試験に加え、法規集を使いこなす技能を測る試験、即日設計の中で適法性をチェックする試験によって、学修成果を評価する。

4. 安全性・快適性のための知識・技術・実践的技能（主としてディプロマ・ポリシーDに

対応)

住宅や建物における構造の安全性や快適性について学ぶ。構造の安全性を確保するための適切で実践的な構法・構造計画や、その基礎にある構造力学や各種の構造学を学ぶ。また居住環境の快適性を確保するには、風通しをよくするために窓をどうとるかという問題や、窓が多すぎて冬に内部の熱が外へ逃げてしまうといった問題、さらに冷暖房設備で人工的に調節する方法など、温熱環境・空気環境・光環境などに関する問題を総合的かつ実践的に解決する必要がある、それらの基礎となる環境工学と設備工学を学ぶ。これらの知識・技術・実践的技能を修得するために、建築構造・環境に関わる専門科目を配置する。専門知識と計算力を問う一般的な試験、及びその意味を体感する実験によって学修成果を評価する。

5. 環境・建築材料に関わる知識・技術・実践的技能（主としてディプロマ・ポリシーDに対応）

住宅・建物の構築に関わる環境・建築材料について学ぶ。建物の安全性と密接に関係している材料強度などの物理的特性、シックハウス症候群や室内環境の汚染に係る接着剤や塗料などの化学的特性を理解する。さらに木質資源材料に代表されるような、製造から廃棄に至るまでの二酸化炭素排出量が小さく、持続的再生産が可能なエコマテリアルに関する知識や、建築材料がいかんして地球温暖化や廃棄物処理などに関わっているかなどの地球環境問題に対する造詣を深める。これらの知識・技術・実践的技能を修得するために、建築材料、施工に関わる専門科目を配置する。専門知識と計算力を問う一般的な試験、及びその意味を体感する実験によって学修成果を評価する。

6. 総合的なデザイン力・実践的技能（主としてディプロマ・ポリシーE、F、Gに対応）

空間や物づくりのための総合的なデザイン力を修得する。新たな居住環境を提案・創造するためには、今までにない発想を生み出す企画力・提案力・構想力・創造力が要求されると共に、自分独自で新たな計画・デザインをつくりあげるというチャレンジ精神が不可欠である。さらにその提案をどう図面化するかという表現能力・実践的技能も必要で、見栄えのよい図面だけでなく、図面表示のルールに則って正しく表記する精緻で細やかな表現技術も要求される。これらの創造的デザイン力、及び実践的な技能を修得するために、設計製図、デザイン演習・居住地（地域）を対象としたフィールドワーク演習を配置する。個人または集団による作業によって作成する作品とそのプレゼンテーションによって、学修成果を評価する。

■ 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

本学科は、新たな居住環境の創造・管理に積極的に取り組む意欲にあふれた人を求める。具体的には、次のような目的意識や勉学意欲を備えた人を受入れる。

- (1) 住む人、使う人の立場に立って居住環境に対する諸要求を把握し、その実現を目指す人
- (2) 居住環境を取り巻く社会問題・環境問題を思考し、主体的にその解決を目指す人
- (3) 図面を書き、模型をつくるという創作・表現活動に積極的に取り組む人
- (4) いろいろな立場や考え方の人と協力・協働しながら、適切な判断を行い、ものごとを進めようとする人
- (5) 大学内外で居住環境に関する知識を積極的に学習する人
- (6) 文科系科目以外の数学、物理学、化学などの学習に積極的に取り組む人
- (7) 卒業後、大学院修士課程に進学し、さらに高度な「専門的職業人」を目指す人

(1)は、居住環境学科の教育理念に基づく一番重要な点である。

(2)～(4)については、必ずしも全部を入学時点で満たしている必要はなく、入学後の自学自習によって獲得できる。

(7)については、必ずしも全員が満たしている必要はない。

一般入試選抜においては、基礎的学力を大学入試センター試験大学入学共通テストの成績にて判定し、居住環境に関する知識を学習する上で不可欠な数学力、及び英語力を個別学力検査にて判定する。

推薦入試学校推薦型選抜においては、居住環境を学ぶ上で必要な基礎的学力を大学入試センター試験大学入学共通テストの成績にて判定し、志望理由書で居住環境に関する知識、思考力、判断力、表現力を判定する。さらに、口述試験において主体性、多様性、協働性を判定する。

【人間福祉学科】

■ 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学科では、学士課程教育を通して、人口構造や社会構造の変化、地域社会の変貌にともなって生起する現代の生活課題を正確に把握し、多様で深刻な個人及び地域の課題に対応できる、理解力、洞察力、実践力、指導力、解決力および品性を兼ね備えた人間を養成します。この目標を達成するために、人間福祉学科において定める専門分野に関する知識・技能等を身につけ、本学科の教育理念や目的に沿った指導を受け、所定の期間在学して所定の単位を修得し、審査や試験に合格した学生に学位を授与します。また、全ての学生が、(知識・理解)、(技能)、(実践的姿勢)、(総合的な学修経験と創造的思考力)の領域で以下のような学習成果をめざします。

(知識・理解)

- ・社会生活を多面的にとらえることができる。
- ・生活と環境、個人と社会の関係についての理解を深め、修得した知識を応用することができる。
- ・生涯にわたる人間の心身の発達と心理・社会的援助について理解し、知識を取得している。

(技能)

- ・多様な言語や情報通信技術 (ICT) などを活用し、対人援助の場面で求められるコミュニケーションの技能を用いて、人と関わることができる。
- ・生活課題を発見し、必要な情報を収集し、複眼的・論理的に分析することができる。
- ・生活課題を解決するために社会資源を活用することができる。
- ・心理・社会的課題を解決するために必要な技能の基礎を身につけている。

(実践的姿勢)

- ・他者と協働して、課題解決に向けた方策を立案し、実行することができる。
- ・人権や社会正義に基づき、自分の責任で判断し、行動できる。
- ・自己理解と他者理解を深めていこうとする姿勢を持っている。

(統合的な学修経験と創造的思考力)

- ・修得した知識・技能・実践力などを総合的に活用し、人と社会における新たな課題の解決に取り組むことができる。

■ 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

- (1) 専門的な知識と方法を体系的に学ぶために、専門科目を設置する。人間の心身に関する専門知識、家族や社会の構造や生活課題に関する専門知識、人間と社会との関係に関する専門知識を体系的に習得する。
- (2) 人間福祉に関連した多様な基礎知識と基本的な学修能力を身に着けるため、全学共通科目として、総合教育科目、基礎教育科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目を置く。特に、人権に関する科目の履修を推奨する。
- (3) 国際的な人材育成を推進するために、外部試験、海外語学講習会および留学に基づく単位認定を行う。
- (4) 学際的な視点を養うため、初年次において、人間福祉に関連する諸科学を概観する科目

として人間福祉学概論を置く。

(5) 知識の活用能力、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等、社会生活において必須となる汎用的な能力を育成するため、人間福祉学演習を必修科目として置く。また、演習や実習を通じて実践的な能力を習得できるようにする。

(6) 習得した知識や技術を統合し、人間福祉に関する現代の課題に接近し、その解決のための実践的・学術的能力を育成するため、卒論演習・卒業論文を必修科目として置く。

■ 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

本学科では、学士課程の教育を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を修める学生を育成して教育目標を達成するために、人間性豊かで、人とかかわり、人を支えることに関心をもち、福祉課題の解決に寄与しようとする志を持つ、向学心旺盛で優れた資質を有する学生を、広く国内外から受け入れます。

そのために、本学科の学士課程では、以下の方針に基づいて、学生の多様な能力を評価するための入学者選抜を実施します。従って、この方針をよく理解したうえで、高等学校までの学びを深め、広めることを期待します。

(1) 高等学校教育段階においてめざす基礎学力を確認します。

(2) 本学の全学共通教育に十分に対応できる準備性を備えていることを確認します。

(3) 人間福祉学科における教育に十分に対応できる準備性を備えていることを確認します。

- ・基礎的なコミュニケーション能力を備えていることを確認します。
- ・人権を尊重する姿勢を備えていることを確認します。